

小千谷市スポーツ推進計画 (一部改訂)



令和5年3月
小千谷市教育委員会

はじめに

2020 東京オリンピック・パラリンピックや各種世界大会での日本選手の活躍は、多くの人々に感動と勇気を与え、スポーツの持つ力を改めて実感したところでもあります。また、スポーツ活動は個人の身体的機能や運動能力を向上させるだけではなく、リフレッシュ効果もあり、人を繋ぎ、人を育み、地域に賑わいをもたらすことのできる大きな力を持っているといわれており、スポーツ人口の増加と健康社会実現に向けた施策の展開が求められています。

小千谷市では平成 20 年にスポーツ振興計画を、平成 30 年にスポーツ推進計画を策定し、「みんなでつくるスポーツのまち小千谷」の実現を目指して、「だれもが、いつまでも、スポーツを楽しむ」ことができる環境づくりやスポーツ振興と地域活性化による好循環社会を形成するため、「する」「みる」「ささえる」を柱に、各種事業に取り組んでまいりました。

この度、スポーツ推進計画の中間期にあたり、社会情勢の変化や施策の成果などを反映させ、より実効的な取組を推進するために一部改訂を行いました。

本計画の基本目標であるスポーツ参画人口の拡大を図るためには、行政、スポーツ関係者及び団体のみならず、学校や企業、地域団体も連携、協働のうえ、幼児から高齢者まで、運動、スポーツに関わることが大切です。

そのために、各種施策を推進し、今まで以上に皆様からスポーツに親しんでいただけるよう取り組んでまいりますので、より一層皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和 5 年 3 月

小千谷市教育委員会 教育長 松井 周之輔

目 次

第1章 スポーツ推進計画一部改訂の基本的事項

1	スポーツ推進計画一部改訂の趣旨	1
2	計画の位置づけ、期間	2
3	基本理念	3
4	現状と課題	3
(1)	「小千谷市スポーツ推進計画」の達成状況	3
(2)	「する」スポーツの現状と課題	
①	生涯スポーツの各期における現状と課題	4
i	幼児期	
ii	学童期	
iii	青少年期	
iv	成人期	
v	高齢期	
②	障がい者スポーツの現状と課題	21
③	競技スポーツの現状と課題	22
(3)	「みる」スポーツの現状と課題	24
(4)	「ささえる」スポーツの現状と課題	25

第2章 計画推進のための基本方針及び施策

1	基本方針	27
2	基本目標	29
3	施策	30
(1)	「する」スポーツ	30
①	生涯スポーツ推進	
②	障がい者スポーツ推進	
③	競技スポーツ推進	
④	環境の整備（施設・事業）	
(2)	「みる」スポーツ	33
(3)	「ささえる」スポーツ	33
①	団体支援、人材育成	
②	地域スポーツイベント支援	
③	トップアスリート支援	

参考資料

小千谷市スポーツ推進審議会委員名簿	35
小千谷市体育施設一覧	36

第1章 スポーツ推進計画一部改訂の基本的事項

1 スポーツ推進計画一部改訂の趣旨

本市は、「みんなでつくるスポーツのまち小千谷」の実現を目指す「小千谷市スポーツ振興計画」を平成20年に策定し、平成30年に「小千谷市スポーツ推進計画」として改定しました。

計画では、「する」スポーツ、「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツに分類・整理し、スポーツ振興施策の推進を図っています。

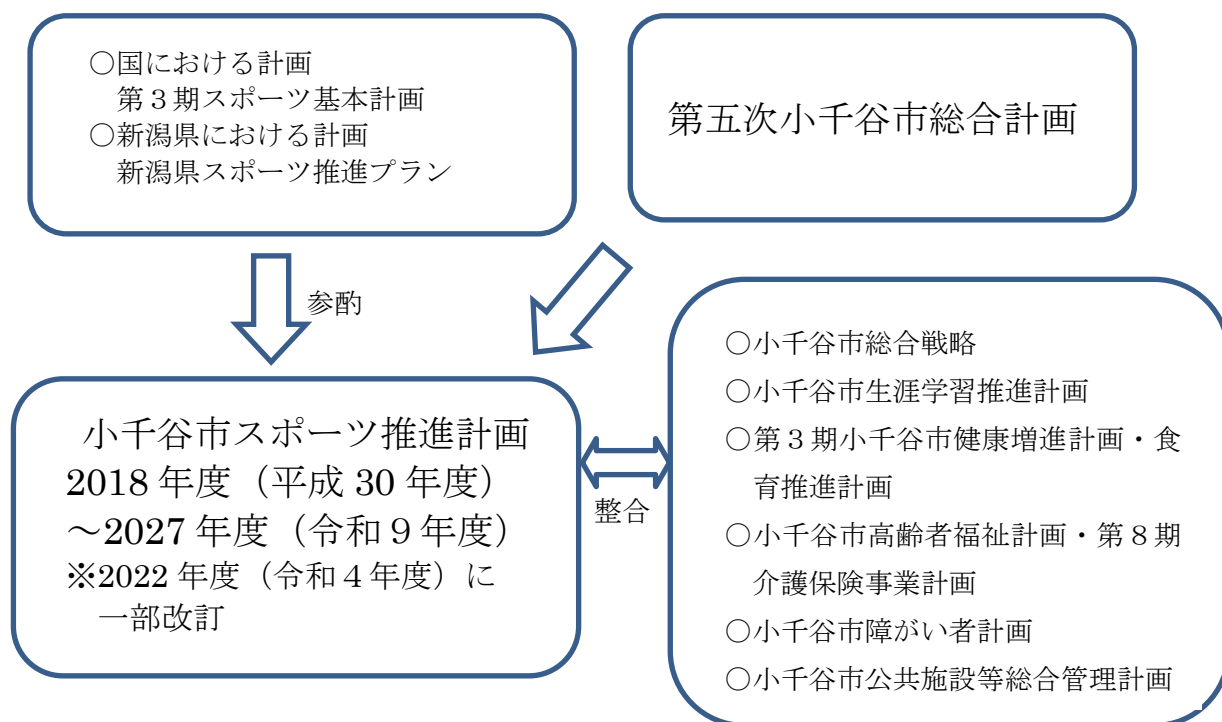
国では、2020東京オリンピック・パラリンピック大会開催後の重点施策を盛り込んだ「第3期スポーツ基本計画」が、令和4年3月に策定されました。この計画では「つくる／はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」という3つの視点のもと、スポーツを「する、みる、ささえる」といった様々な形でスポーツ活動に参画し、楽しさや喜びを得て、日常生活や身体が良好な状態へとつながることを目指しています。

新潟県では、「スポーツ基本法の制定」や「2020東京オリンピック・パラリンピックの開催」など、近年のスポーツ環境を取り巻く情勢の変化に対応するため、「スポーツ振興と地域活性化の好循環の創出」を目標とした「新潟県スポーツ推進プラン」を平成28年に策定、令和4年3月に改定しました。

これらの状況を踏まえ、本市は、各施策の達成状況の確認や人口減少、コロナ禍におけるスポーツ活動の推進などの課題を抽出し、時勢に合わせた修正を加味した計画の見直しを行いました。

2 計画の位置づけ、期間

本計画は、スポーツ基本法第10条に基づき地方公共団体が策定する「地方スポーツ推進計画」であり、国の「第3期スポーツ基本計画」、県の「新潟県スポーツ推進プラン」を参酌し、本市の現状や課題を踏まえています。また、本計画の策定及び推進においては、「第五次小千谷市総合計画」を上位計画として、「小千谷市総合戦略」、「小千谷市生涯学習推進計画」、「第3期小千谷市健康増進計画・食育推進計画」、「小千谷市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画」、「小千谷市障がい者計画」、「小千谷市公共施設等総合管理計画」との整合を図ります。



計画期間 2018年度（平成30年度）～2027年度（令和9年度）までの10年間

西暦	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
【小千谷市】										
・第五次小千谷市総合計画（H28～）	→									
・スポーツ推進計画	←									
【国】										
・第2期スポーツ基本計画（～R3）	→									
・第3期スポーツ基本計画（R4～）					←					
【県】										
・スポーツ推進プラン（H28～）	→									

3 基本理念

「小千谷市スポーツ推進計画」の基本方針である「する」「みる」「ささえる」スポーツをさらに発展させ、「だれもが、いつまでも、スポーツを楽しむ」ことができる生涯スポーツの環境づくりを目指します。

スポーツ活動は、人々の健康の維持・増進や運動能力の向上のほか、精神的な充足感の獲得やストレス解消による生きがいの高揚、青少年の健全育成や高齢者・障がい者の社会参加をはじめとした地域コミュニティの活性化などに寄与します。また、スポーツ選手の不断の努力と活躍に触れることによって、人々が夢と感動を得て、社会に活力を生みだすなど、大きな力を持っています。住民や行政、スポーツ推進団体、学校、企業など、それぞれがスポーツの価値を理解し、その力を活かしながら主体的な取組を行うとともに、互いに協力することにより、スポーツ振興と地域活性化が好循環する仕組みを確立し、地域の活力を高めることを目指します。

4 現状と課題

(1) 「小千谷市スポーツ推進計画」の達成状況

「小千谷市スポーツ推進計画」では「する」「みる」「ささえる」の基本方針の推進により、令和9年度の『成人の週1回以上のスポーツをする人の割合65%』を到達目標としています。

平成28年の「スポーツや運動に関する意識調査」において、成人の週1回以上スポーツをする人の割合は「41.0%」で、前回（平成16年）調査時の「30.6%」より10ポイント以上向上し、令和2年の「健康づくりアンケート調査」においては「34.9%」で、前回（平成25年）調査の「29.3%」より5ポイント以上向上していますが、令和2年度の目標値であった50%の達成には至っていません。

また、ボランティア活動実施割合は増加しているものの、競技スポーツにおける結果指標としている全国大会出場者は、わずかに減少しています。

これらのことは、令和2年1月に国内で初めて感染者が確認された「新型コロナウイルス感染症」により生じた行動制限や施設の休館、各種大会の中止が影響していると考えられます。

◆成人の週1回以上スポーツをする人の割合

小千谷市

□スポーツや運動に関する調査

調査年	週1回以上の割合	出典
平成16年	30.6%	スポーツ振興計画策定時「運動やスポーツに関する意識調査」
平成28年	41.0%	スポーツ推進計画策定時「スポーツや運動に関する意識調査」

□健康づくりに関する調査

平成25年	29.3%	第2期健康増進計画策定時「健康づくり意識調査」
令和2年	34.9%	第3期健康増進計画進行管理時「健康づくりアンケート調査」

※「スポーツや運動に関する調査」と「健康づくりに関する調査」では、調査対象や調査方法等が異なります。

新潟県

調査年	週1日以上の割合	出典
平成29年	32.7%	県民アンケート スポーツに対する意識及び実施状況
令和3年	56.6%	県民アンケート スポーツに対する意識及び実施状況

国

調査年	週1回以上の割合	出典
平成28年	42.5%	スポーツの実施状況等に関する世論調査
令和3年	56.4%	スポーツの実施状況等に関する世論調査

◆全国大会等に出場する者の割合

年度	全国大会（国際大会含む）	割合
平成28年	74件	0.20%
令和3年	54件	0.16%

人口（年度末）に対して、小千谷市国際交流・文化・スポーツ振興基金の報奨金交付対象者（延べ件数）の割合（団体申請含む）

◆スポーツに関するボランティア活動実施割合

調査年	割合	出典
平成16年	19.4%	スポーツ振興計画策定時「運動やスポーツに関する意識調査」
平成28年	24.2%	スポーツ推進計画策定時「スポーツや運動に関する意識調査」

(2) 「する」スポーツの現状と課題

①生涯スポーツの各期における現状と課題

i 幼児期（1歳6か月～就学前）

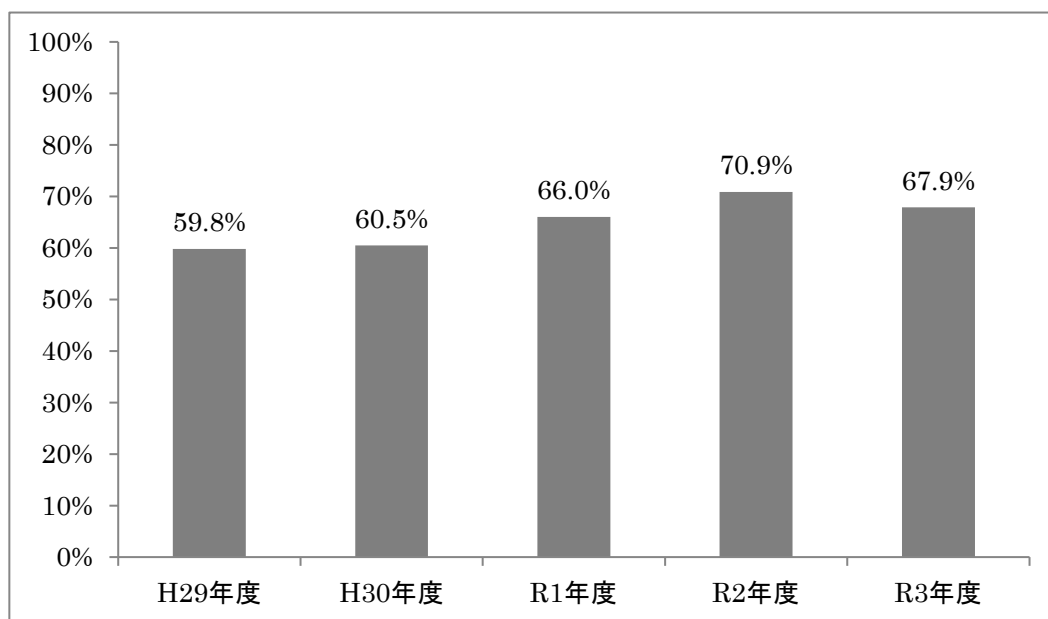
本市では、第3期小千谷市健康増進計画・食育推進計画において「食べて・動いて・よく寝よう」をスローガンとした子どもたちの健康的な生活習慣を確立する運動に取り組んでいます。朝ごはんをしっかりと食べ、体温を上げて日中の活動量を増やすことで体力をつけていくことができます。

令和3年度の幼児・園児を対象としたアンケートによると、外遊びを1日30分以上している子の割合は幼児で67.9%（図表1）であり、3人に1人は外遊びをしていないこととなります。一方、園児になると86.2%が1日1時間以上、体を使って遊んでいます（図表2）。テレビやビデオの視聴に偏らずに、戸外遊びを通じた運動は生活のリズムを整えるうえでも重要であり、啓発と機会の提供が必

要です。

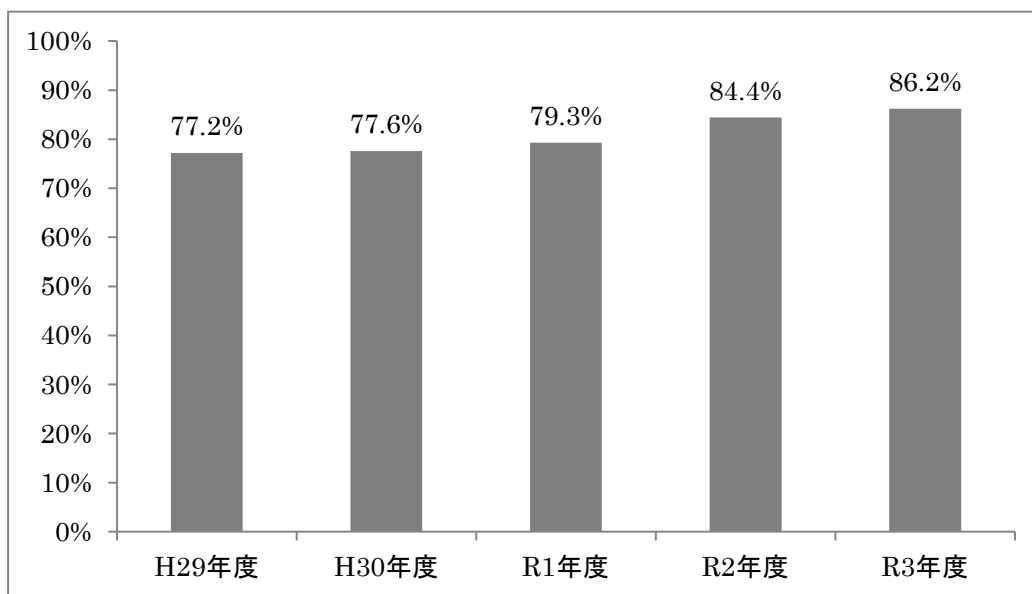
※幼児：1歳6か月～3歳 園児：4歳～6歳

図表1 外で身体を動かして遊ぶ子の割合(幼児:1歳6か月～3歳)



※乳幼児健診生活アンケート(健康未来こども課調べ)

図表2 体を動かして遊ぶ子の割合(園児:4歳～6歳)



※むし歯予防教室アンケート(健康未来こども課調べ)

ii 学童期（小学生）

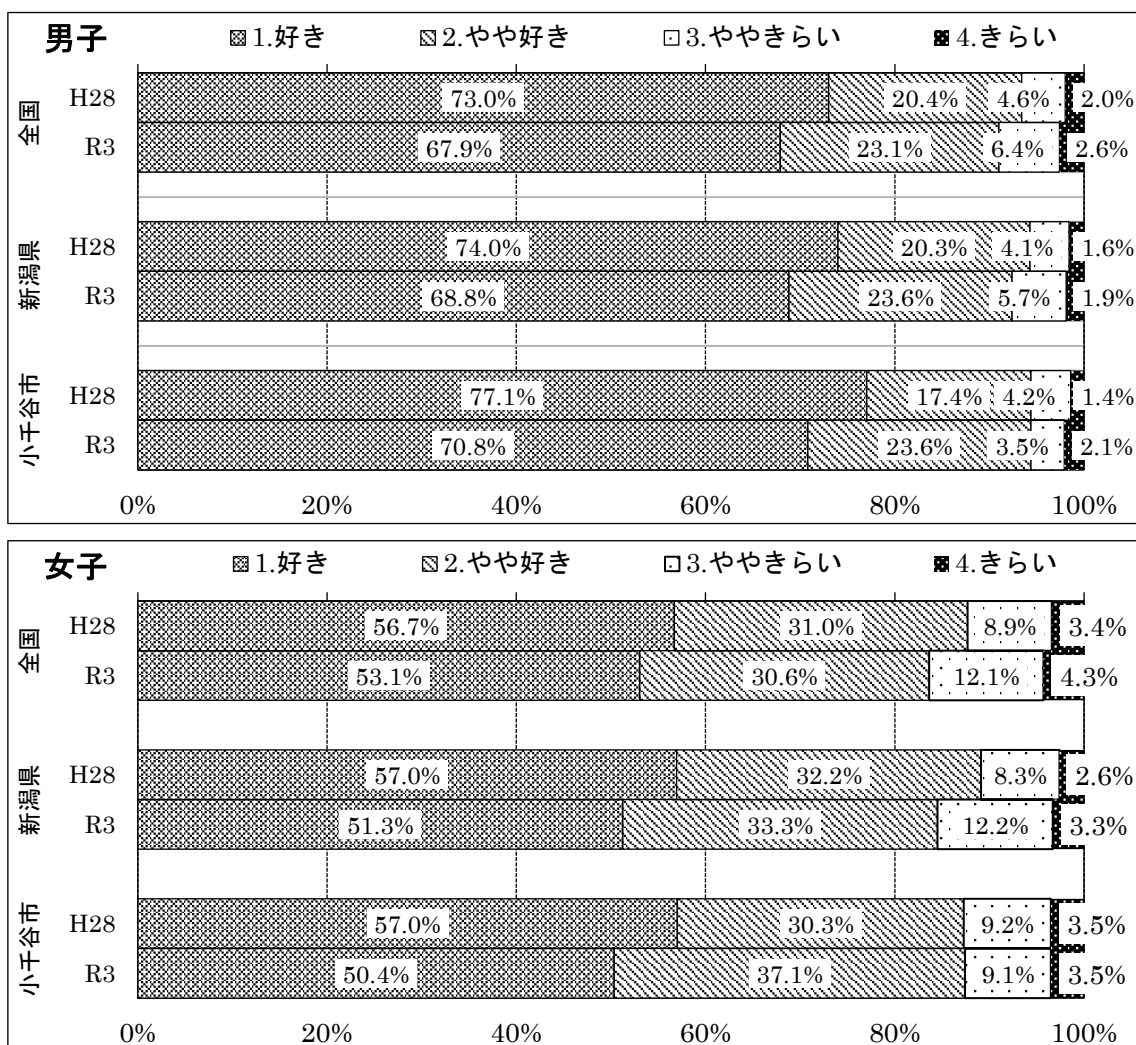
令和3年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、小千谷市の児童は「運動が好き」「やや好き」と答えた男子は94.4%、女子は87.5%（図表3）、「運動が大切である」「やや大切である」と答えた男子は95.1%、女子は94.4%（図表4）でした。

スポーツ少年団など地域のスポーツクラブに所属する割合も男子は65.5%、女子は46.9%（図表5）と高く、また、1週間の総運動時間が60分以上の者の割合は全国、県と比べて男女とも上回っています（図表6）。

これからは運動が不得手な子が、健康のために食事、睡眠に加えて運動が大切であることを意識し、競技スポーツのみならず、レクリエーション要素の高い楽しむスポーツに親しむ機会の提供も必要です。

図表3

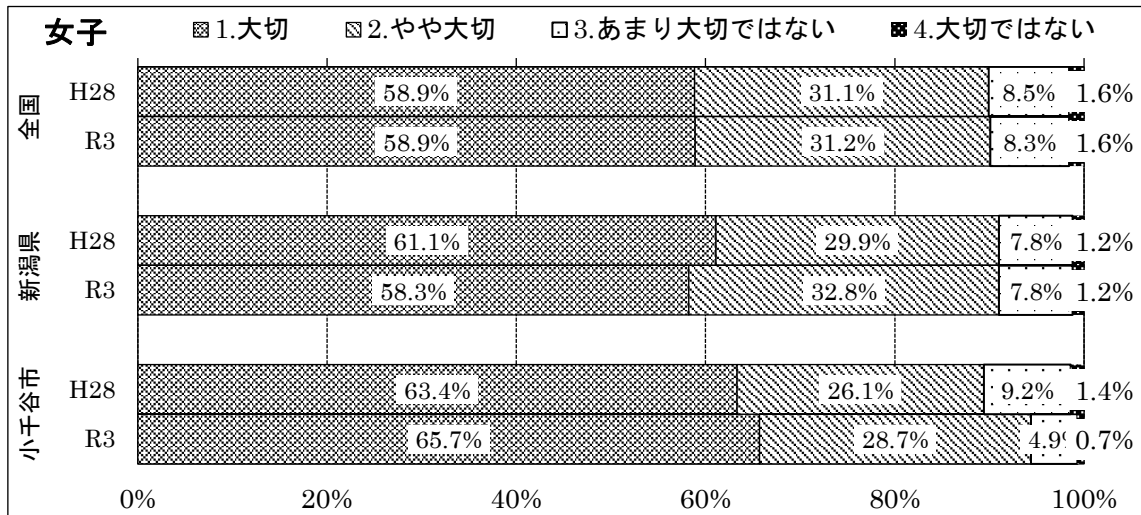
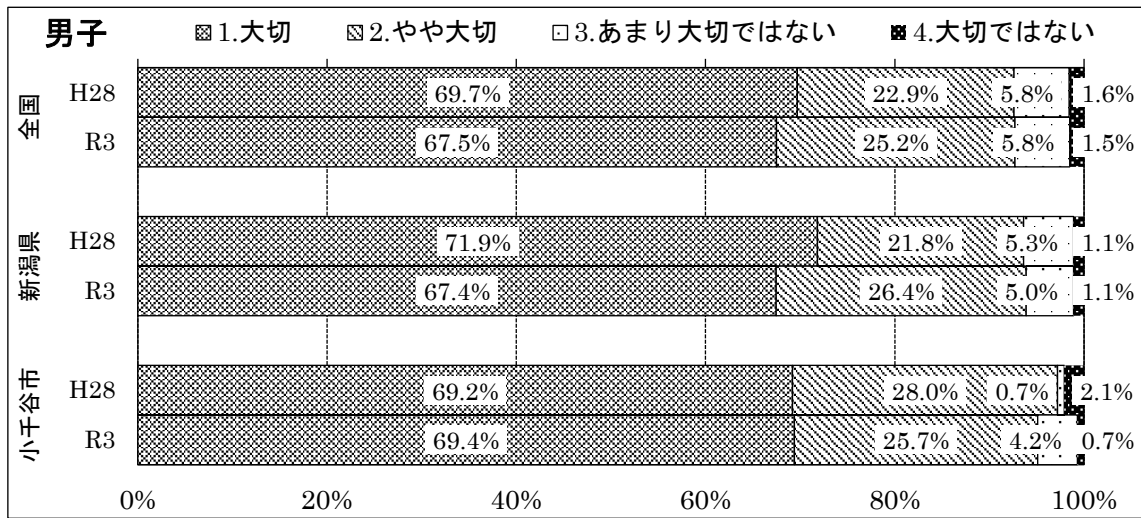
Q. 運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。



※令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

図表 4

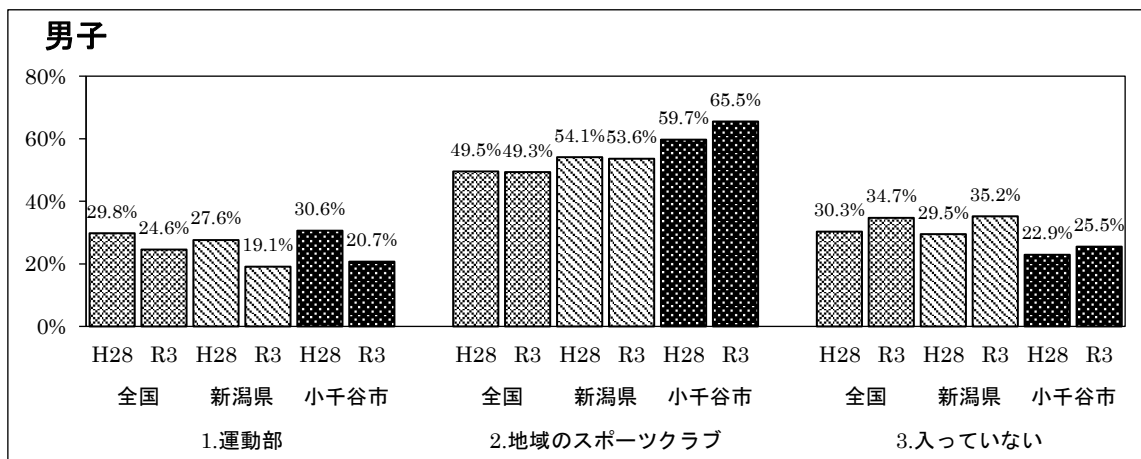
Q. あなたにとって運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは大切なものですか。

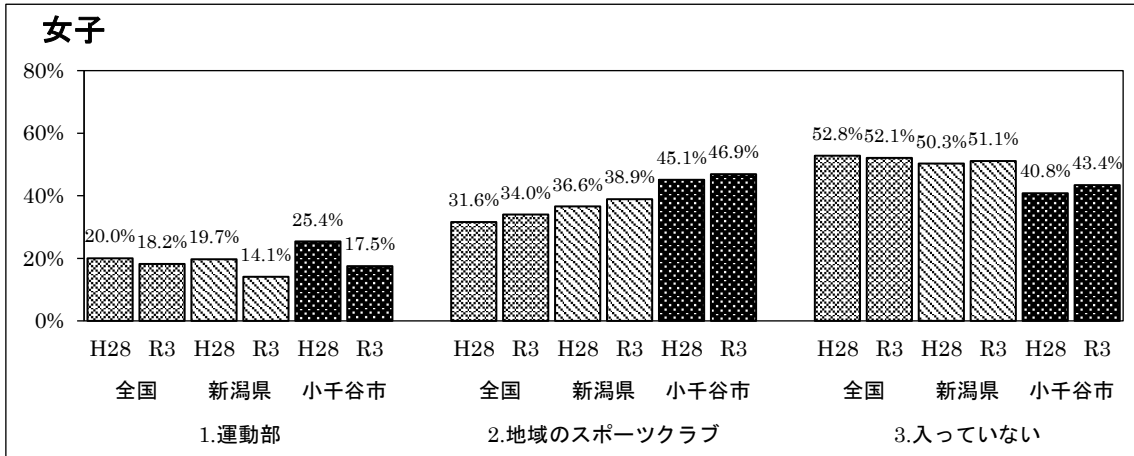


※令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

図表 5

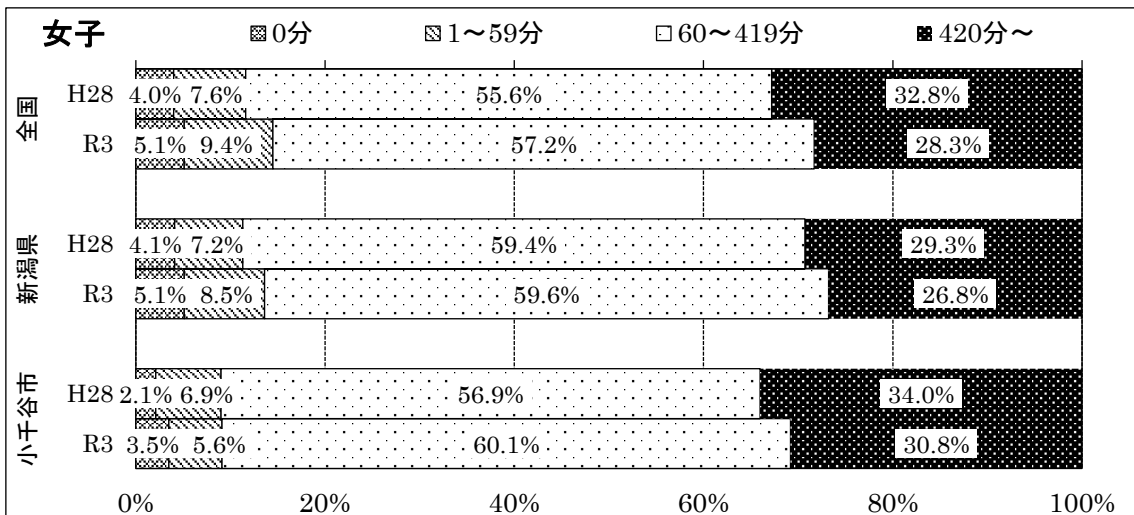
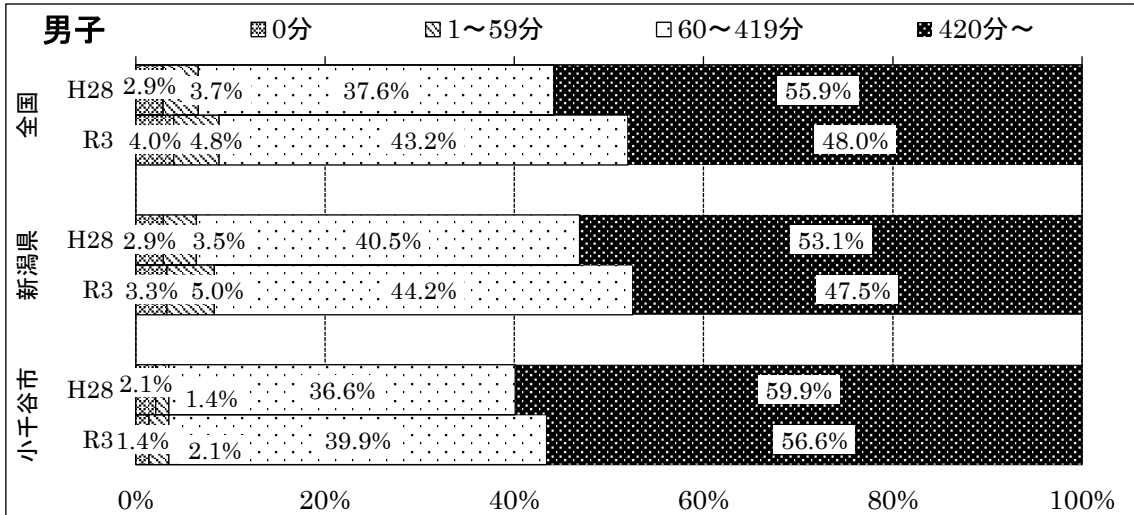
Q. 学校の運動部や地域のスポーツクラブに入っていますか(スポーツ少年団を含みます)。





※令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

図表6 1週間の総運動時間(カテゴリー別)



※令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

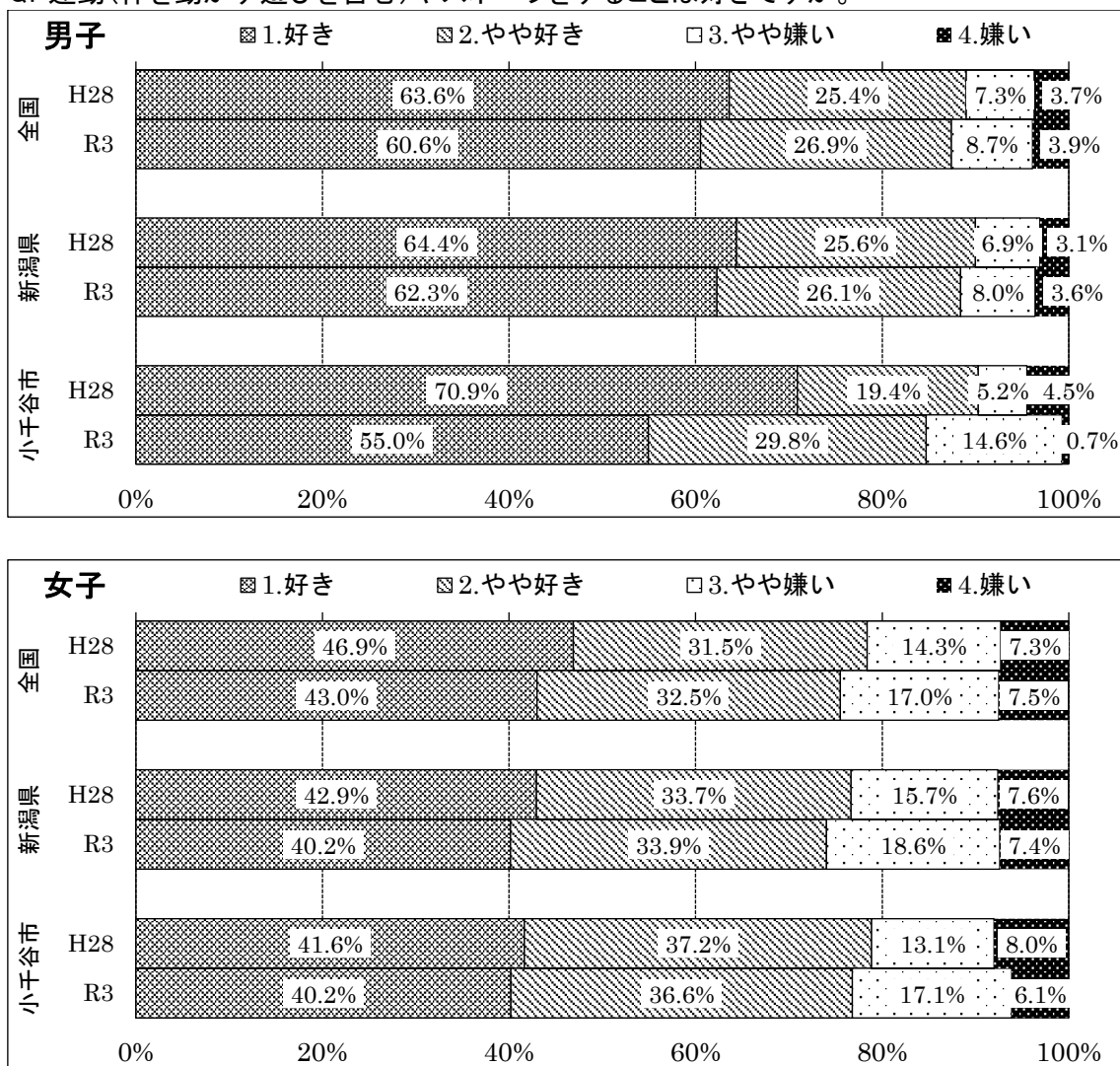
iii 青少年期（中学～18歳）

令和3年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、「運動が好き」「やや好き」と答えた男子は84.8%、女子は76.8%（図表7）で、「運動が大切である」「やや大切である」と答えた男子は96.7%、女子は89.6%（図表8）で、本市の中学生は、体育や運動に対して肯定的にとらえている生徒が多い結果となりました。また、卒業後も自主的にスポーツをする意欲を持つ者は、男子は86.1%で全国や県とほぼ同じ割合ですが、女子は83.8%で（図表9）全国や県を上回っています。

休日の中学校部活動地域移行を踏まえ、運営団体や指導者の確保が必要であるとともに、楽しみながらスポーツに取り組み、生涯スポーツへつなげる観点から、様々なスポーツに親しむ場や機会の提供が必要です。

図表7

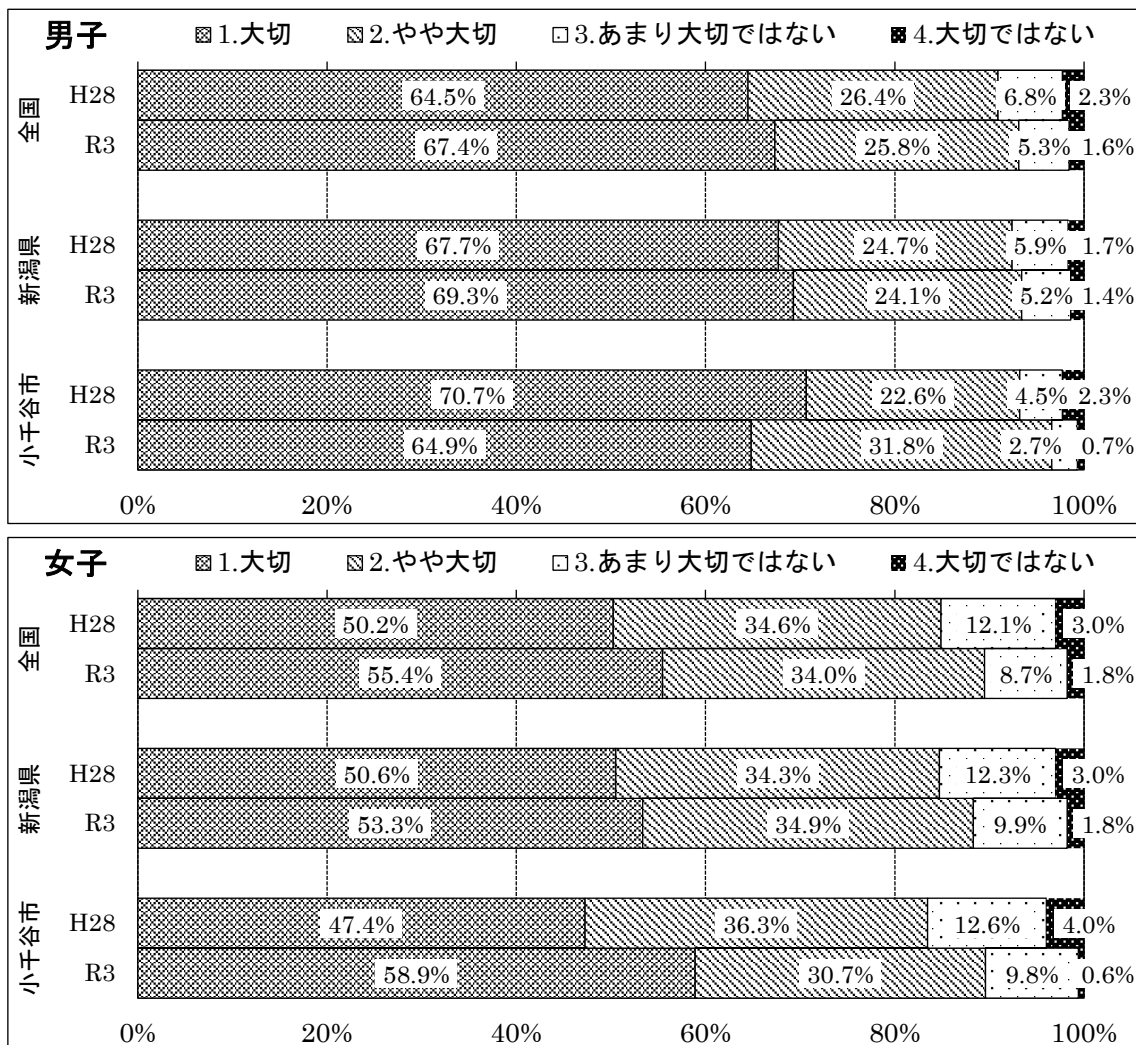
Q. 運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。



※令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

図表 8

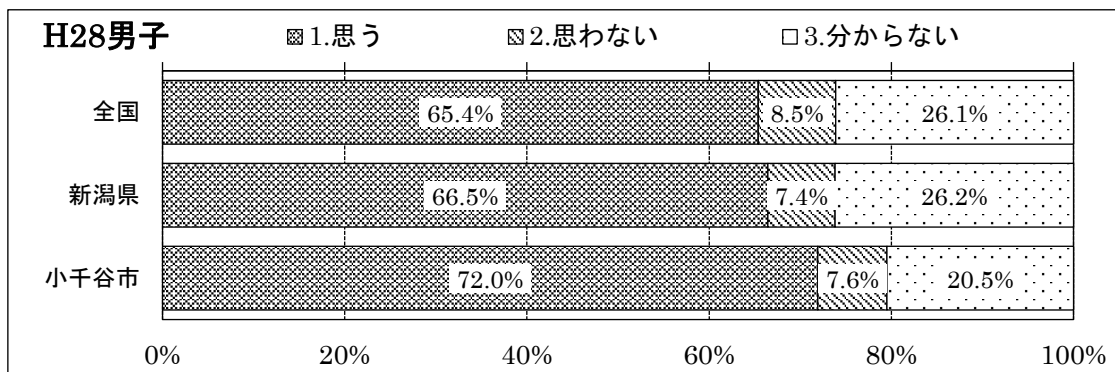
Q. あなたにとって運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは大切なものですか。

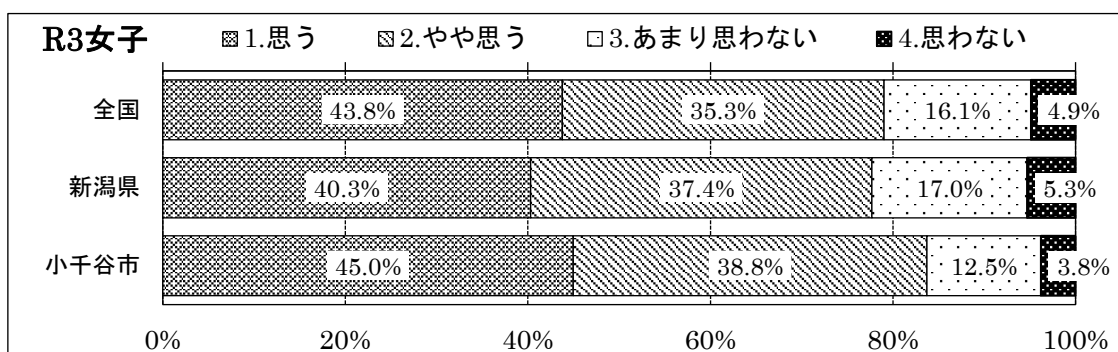
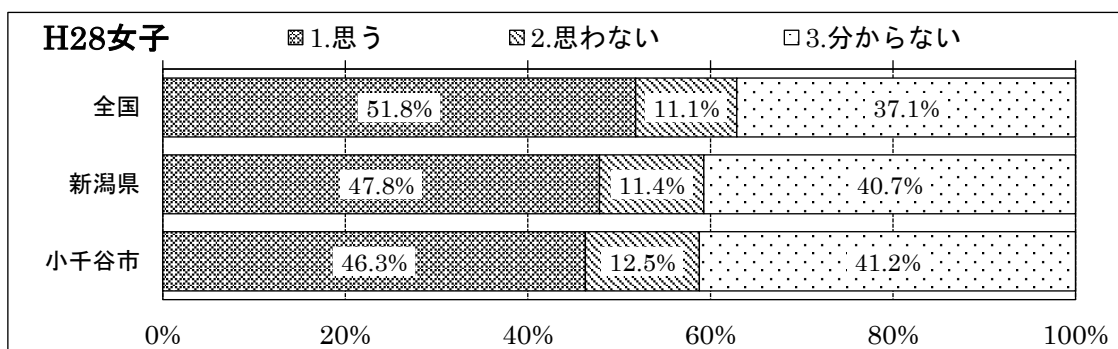
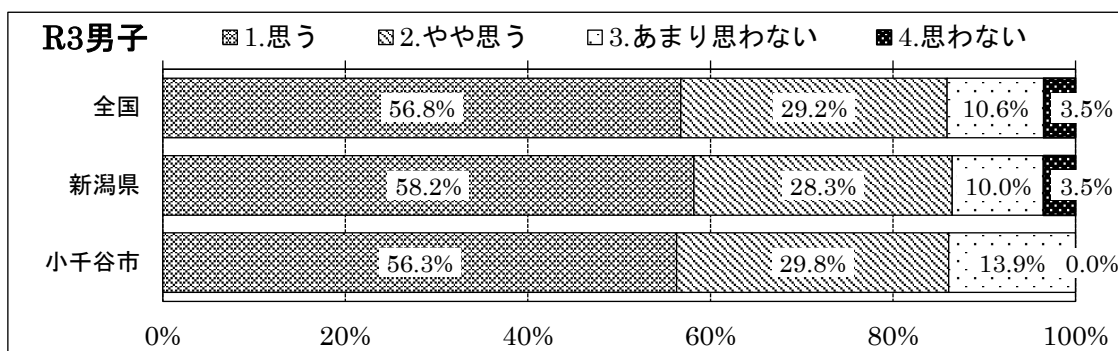


※令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

図表 9

Q. 中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。





※令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

iv 成人期

平成28年度に実施した「スポーツや運動に関する意識調査」によると、運動が好きな人の割合は約7割（図表10）、また運動を必要と感じている人の割合は8割超（図表11）であり、運動に対して肯定的にとらえています。しかしながら、「ほとんど運動しない」、「月に1～3回」と答えた人が30代で71.1%、50代で64.3%（図表12）であり、その理由として「仕事（家事・育児を含む）が忙しい」が30代で83.7%、50代で62.5%でした（図表13）。スポーツや運動に期待することは、「健康維持や体力づくりのため」が約8割（図表14）で、どの年代でも高い割合を示しています。自分の健康状態については「あまり健康でない」「健康でない」と答えた人の割合は、年齢が上がるにつれ増加傾向です（図表15）。

運動の必要性、健康維持など運動への期待はあるものの、子育てや仕事に時間を費やし、自分の余暇時間を確保しづらいことから、運動することへの一歩が踏み出せていない状況です。

親子で運動できる機会の提供、ワークライフバランスの改善による時間的余裕の確

保、運動実施率を高めるための啓発、情報の提供、スポーツ教室やセミナーなどの提供が必要です。

ⅴ 高齢期

平成28年度に実施した「スポーツや運動に関する意識調査」によると、運動が好きな人の割合は60歳代で約6割、70歳代で約7割（図表10）、運動を必要と感じている人は60歳以上で約8割（図表11）であり、運動に対して肯定的にとらえています。また、運動に期待することとして他の年代と同様、「健康維持や体力づくり」「ストレス解消」などが高く、特徴的なものとして「地域交流」が他の世代と比べ高い関心を示しています（図表14）。

週に1日以上運動をする人の割合は、60歳代で4割強、70歳以上は6割弱（図表12）であり、他の世代と比べ高い割合を示しています。

60歳以上の人は、スポーツ振興に期待する効果として「生きがいづくり」（図表16）、スポーツ活動を振興させるため力をいれてほしいこととしては「高齢者等のスポーツの普及」（図表17）を望む人の割合が高くなっています。このことは、退職後の余暇時間の過ごし方としてスポーツを生きがいづくりとして捉え、また高齢者スポーツの普及事業により充実したスポーツ活動を望んでいるものです。

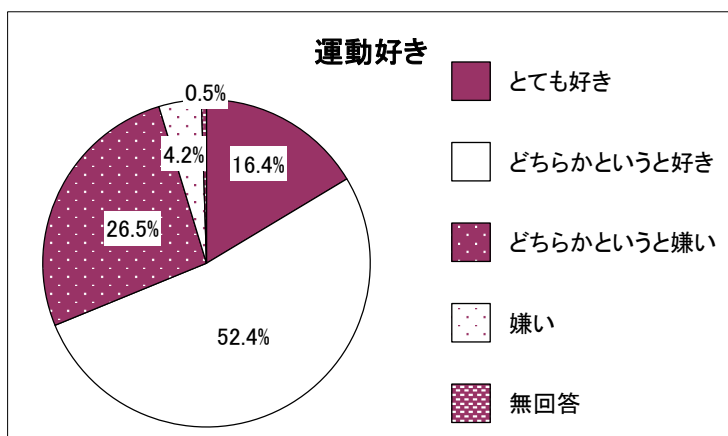
健康維持や体力づくり、生きがいづくりのための運動が高齢社会の中で健康寿命の延伸や介護予防につながるものと捉え、人口割合の高いこの世代は、運動スポーツの普及と習慣化が必要です。



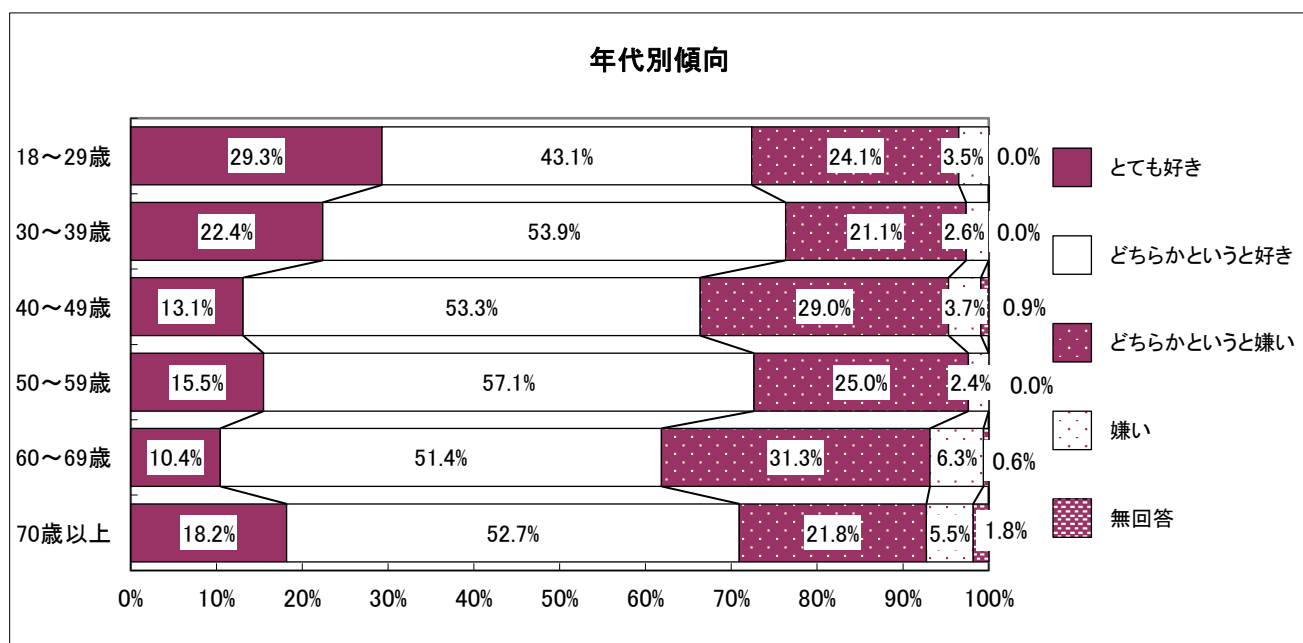
図表 1 0

Q. あなたはスポーツや運動など身体を動かすことが好きですか(回答者数:525人)。

運動好き	とても好き	86
	どちらかという好き	275
	どちらかという嫌い	139
	嫌い	22
	無回答	3



7割近くの人が「とても好き」・「どちらかという好き」と回答している。



年代別では、どの年代もおよそ7割の人が運動が好きと答えているが、40歳代・60歳代は運動を好まない人が少し多い。

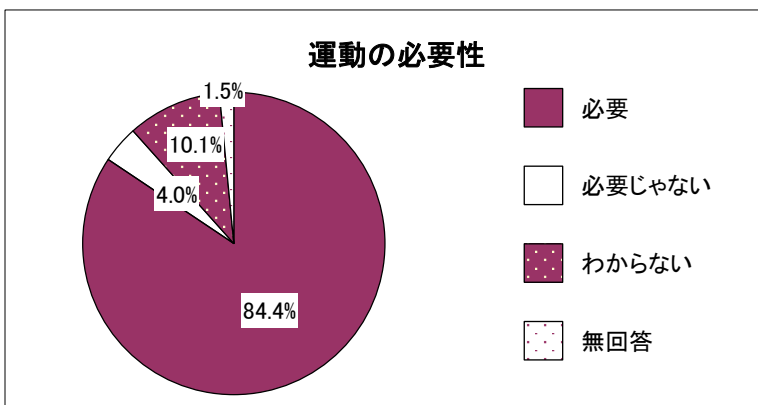
※平成28年度「スポーツや運動に関する意識調査結果」



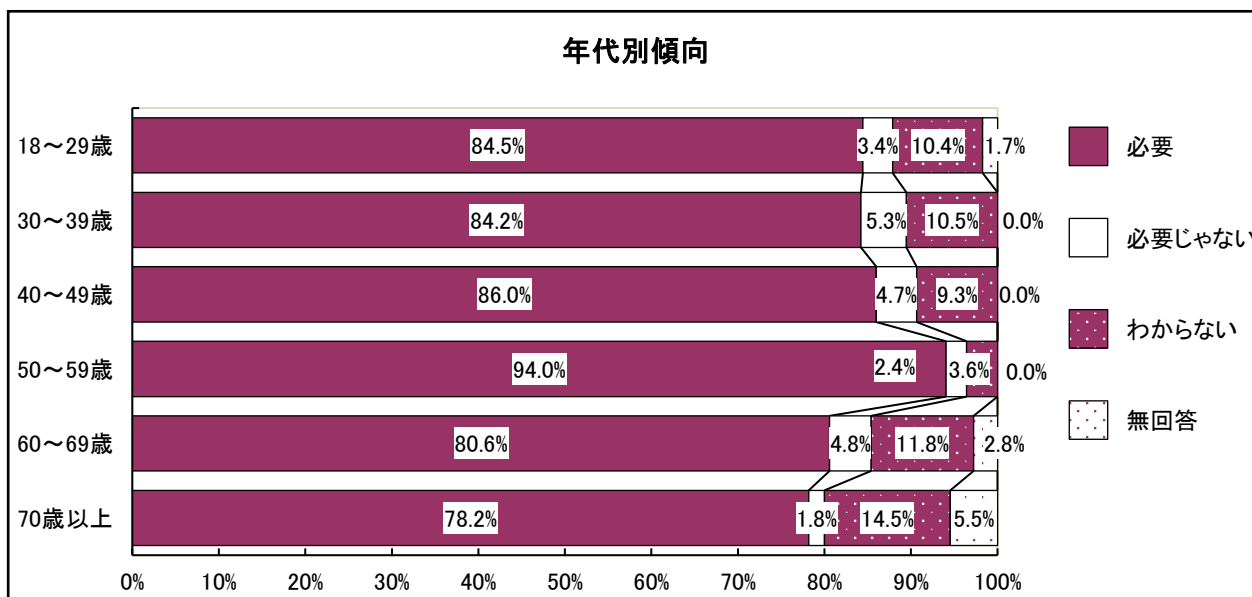
図表 1 1

Q. あなたは定期的なスポーツや運動を行うことが必要だと思いますか（回答者数:525人）。

定期的に運動が必要か	必要	443
	必要じゃない	21
	わからない	53
	無回答	8



運動を必要と感じている人が8割強となり、運動意欲は高い。



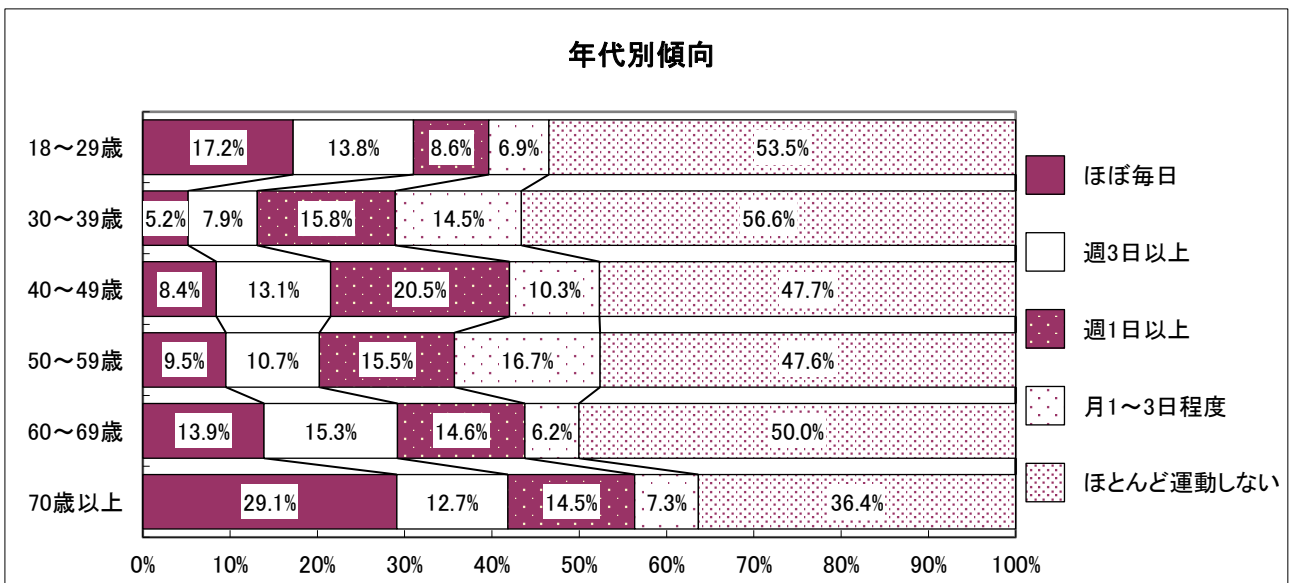
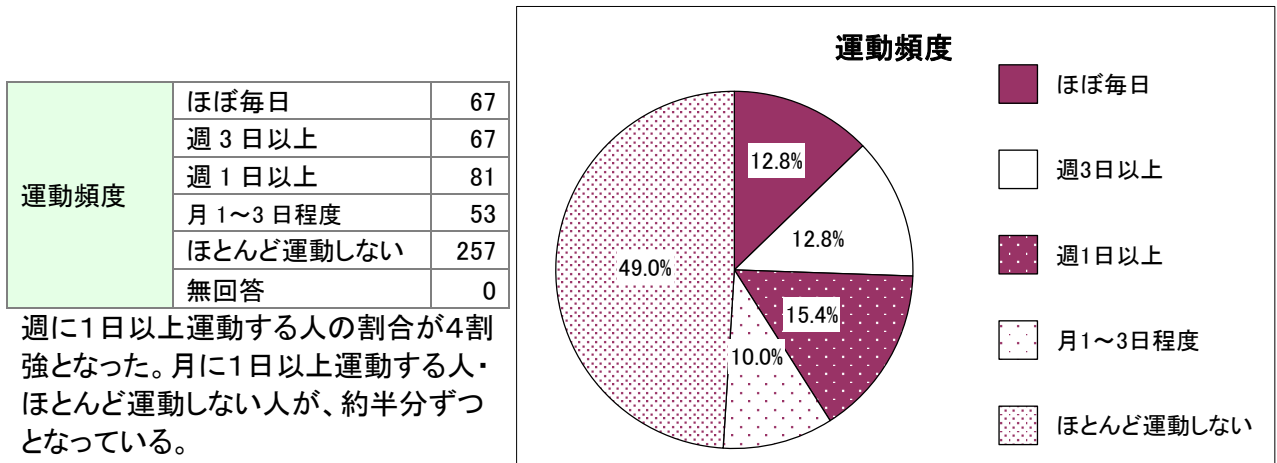
どの年代も運動が「必要」と思っている。50歳代が最も多く、9割を超えている。

※平成28年度「スポーツや運動に関する意識調査結果」



図表 1 2

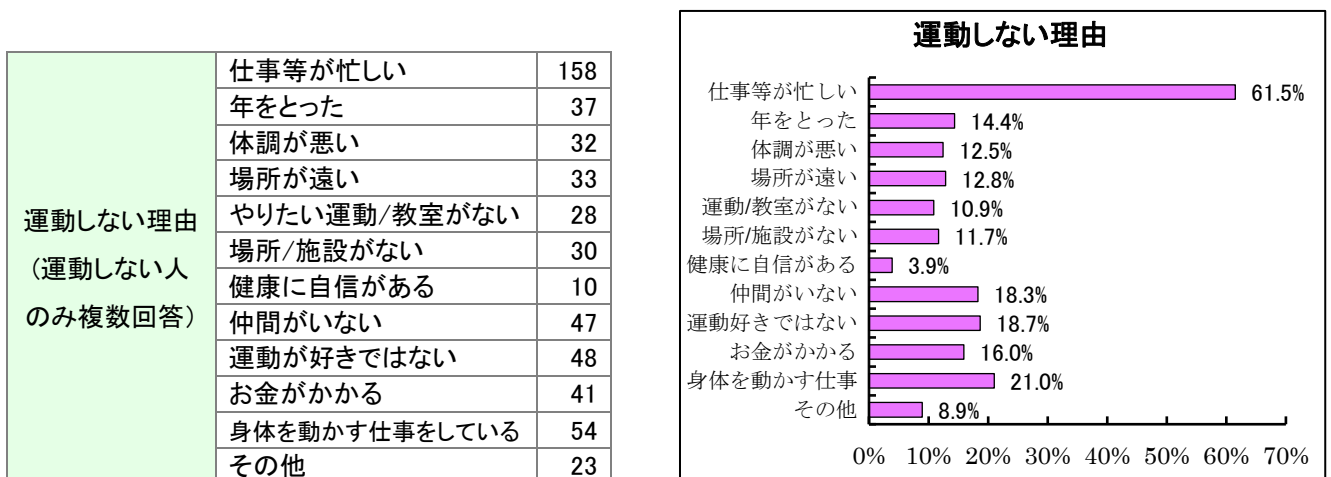
Q. あなたはふだん、ウォーキングや軽い体操、レクリエーション活動なども併せ、スポーツや運動をどの程度行っていますか(回答者数:525人)。



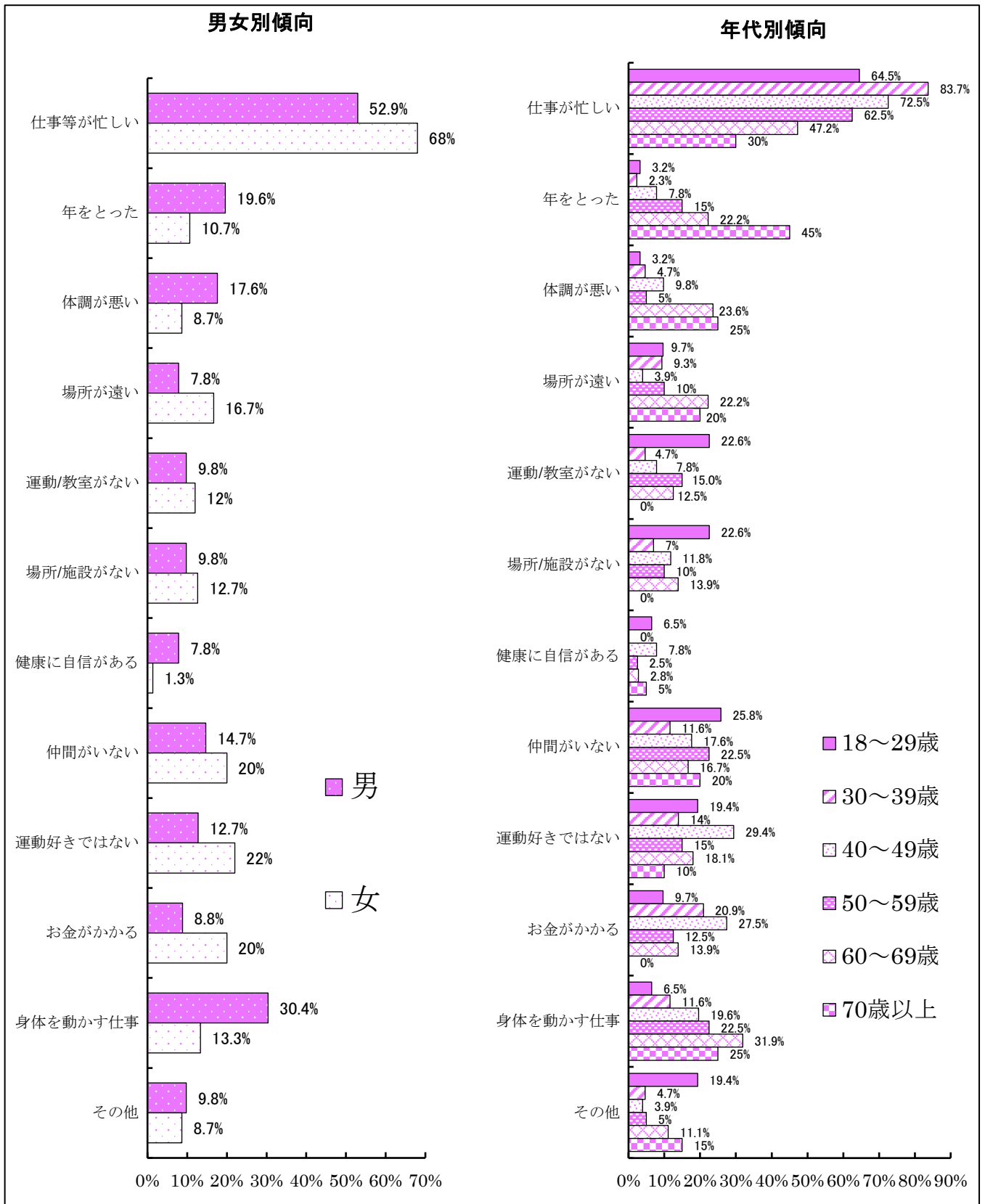
※平成28年度「スポーツや運動に関する意識調査結果」

図表 1 3

Q. 「運動しない」と回答した理由は何ですか。(複数回答) (回答者数:257人)



「仕事等が忙しい」という理由で運動できない人が6割強と最も多く、その他の理由は大きな差はない。



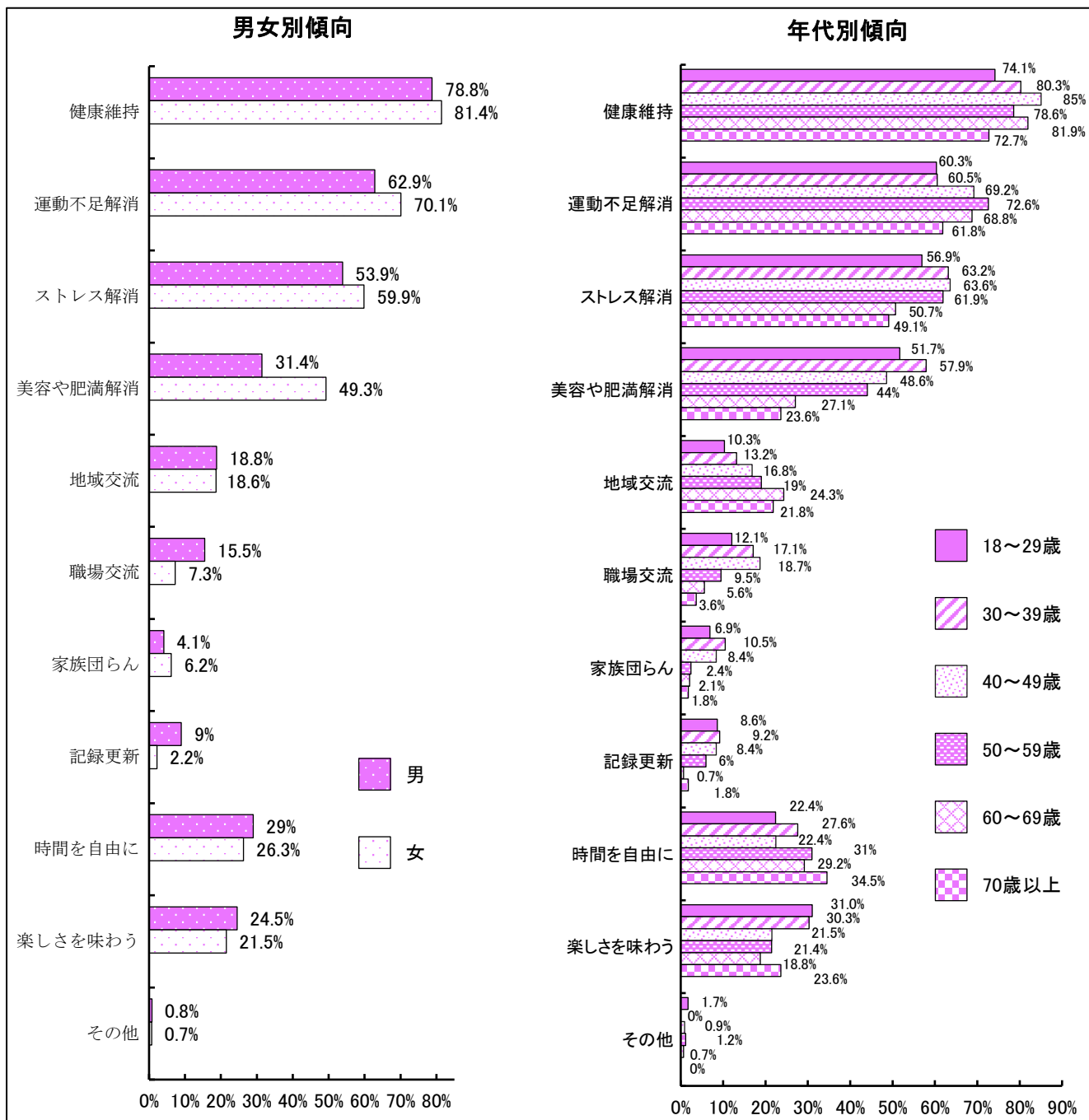
・男女ともに「仕事等が忙しい」という理由が最も多い。次いで、男は「体を動かす仕事をしている」という理由が多く、女は「仲間がいない」・「運動が好きではない」・「お金がかかる」という理由が多い。
 ・年代別傾向は70歳以上を除いた年代は「仕事等が忙しい」という理由が最も多い。30歳代は8割を超え、最も多い。70歳以上の人は「年をとった」という理由が最も多い。

※平成28年度「スポーツや運動に関する意識調査結果」

図表 1 4

Q. あなたがスポーツや運動に期待することは何ですか。(複数回答) (回答者数 525 人)

スポーツや運動に期待すること (複数回答)	健康維持や体力づくり	420	家族団らんの機会	27
	運動不足解消	350	自己記録の更新	28
	ストレス解消や気晴らし	301	自分の時間を自由に楽しむ	145
	美容や肥満解消	215	運動の楽しさを味わう	122
	地域の人との交流	97	その他	4
	職場や友人との交流	58		



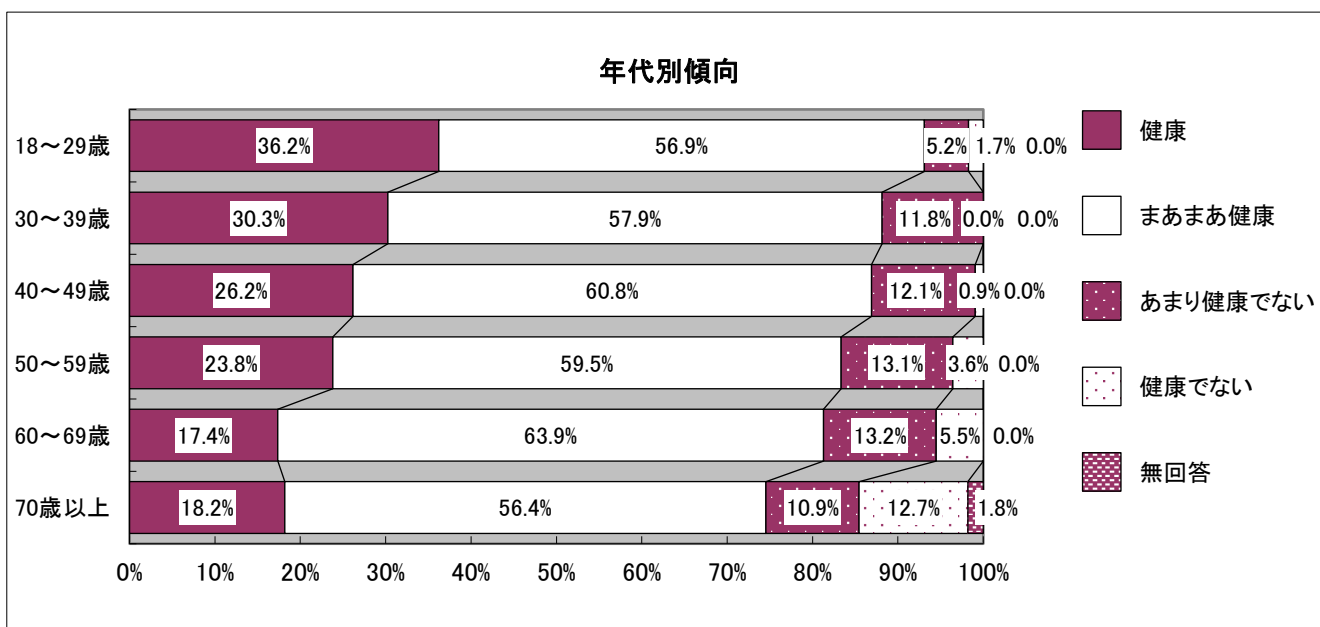
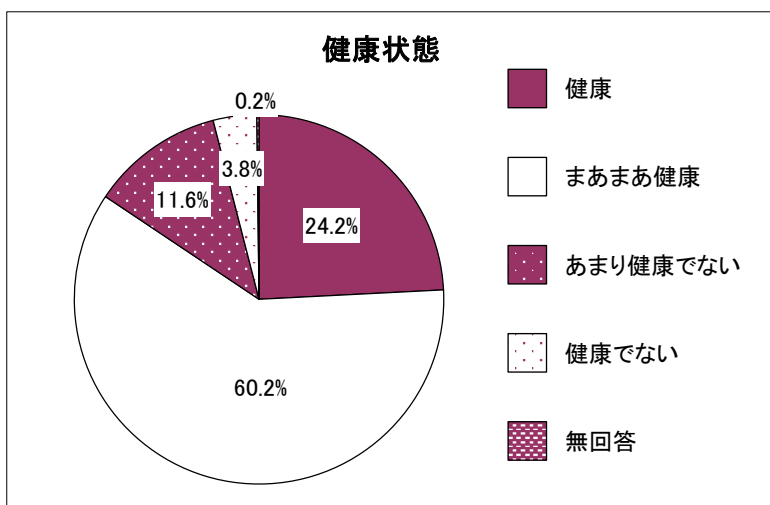
男女ともに「健康維持や体力づくり」・「運動不足解消」・「ストレス解消」が多い。男に比べ、女は「美容や肥満解消」に期待している方が多い。

※平成28年度「スポーツや運動に関する意識調査結果」

図表 1 5

Q. あなたは自分の健康についてどのように感じていますか。（回答者数 525 人）

健康状態	健康	127
	まあまあ健康	316
	あまり健康でない	61
	健康でない	20
	無回答	1



年代別では大きな差はないが、年齢が上がると健康に不安を持つ人が多い。

※平成28年度「スポーツや運動に関する意識調査結果」

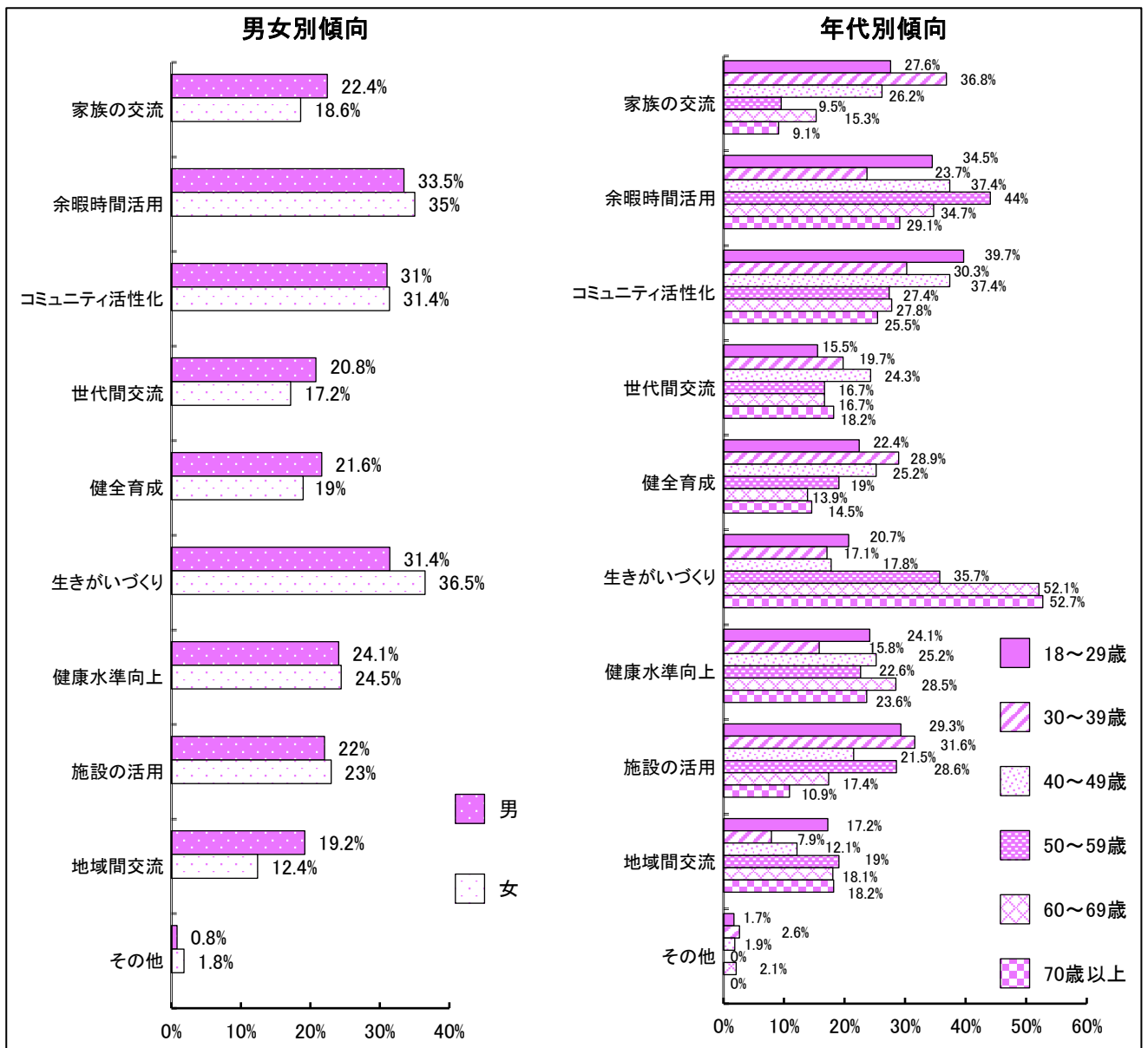
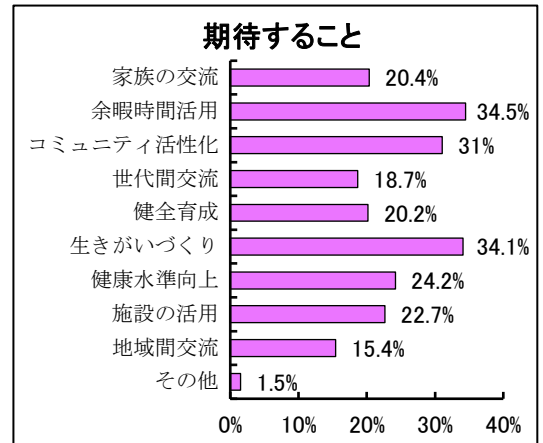


図表 1 6

Q. スポーツ振興にどのような効果を期待しますか。(回答者数:525人 3つまで複数回答)

スポーツ振興にどのような効果を期待するか (複数回答)	家族の交流	107
	余暇時間の有効活用	181
	コミュニティの活性化	163
	世代間交流の促進	98
	青少年の健全育成	106
	高齢者の生きがいづくり	179
	地域の健康水準の向上	127
	スポーツ施設の有効活用	119
	地域間交流の促進	81
	その他	8

「余暇時間の有効活用」・「コミュニティの活性化」・「高齢者の生きがいづくり」が3割強と回答が多かった。



男女別では大きな差はなく、「余暇時間の有効活用」・「コミュニティの活性化」・「高齢者の生きがいづくり」が3割強と多い。18歳～29歳は「コミュニティの活性化」、30歳代は「家族の交流」、40歳代・50歳代は「余暇時間の有効活用」、60歳以上は「高齢者の生きがいづくり」が最も多い。

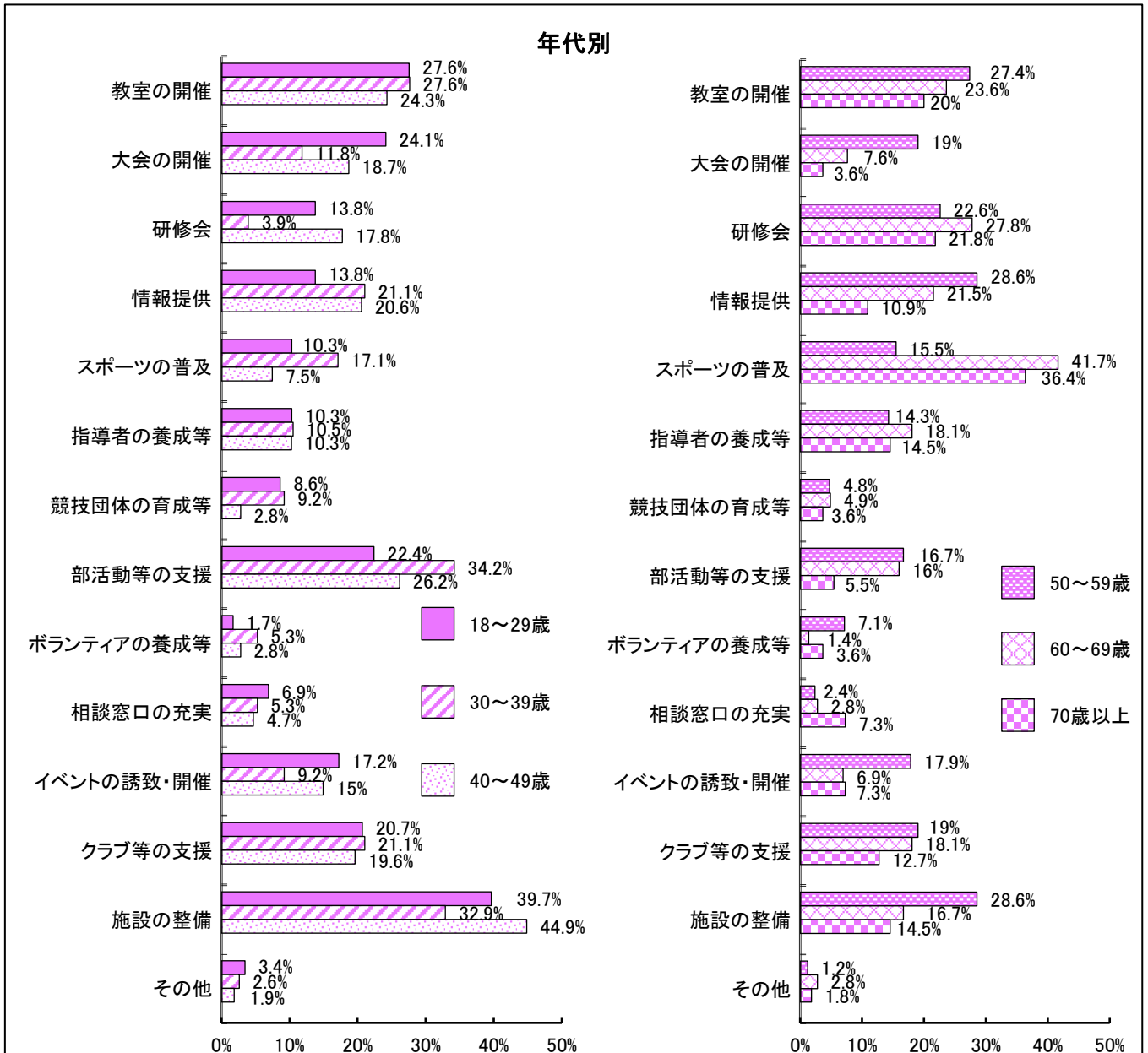
※平成28年度「スポーツや運動に関する意識調査結果」

図表 1 7

Q. スポーツ活動を振興させるため、力をいれてほしいことは何ですか。(3つまで複数回答)

(回答者数:525 人)

スポーツ活動を振興させるために、どのようなことに力をいれてもらいたい(複数回答)	スポーツ教室の開催	131	スポーツ少年団・部活動の支援	107
	スポーツ大会の開催	72	ボランティアの養成・支援	18
	スポーツ等の研修会	101	スポーツ等の相談窓口の充実	23
	スポーツ関係の情報提供	107	大規模イベントの誘致・開催	62
	高齢者/障がい者スポーツの普及	120	クラブ/サークルの支援	98
	指導者の養成・支援	71	活動施設の整備・充実	152
	競技団体の育成・競技力の向上	28	その他	12



年代別でみると18~29歳、40歳代は「活動施設の整備・充実」、30歳代は「スポーツ少年団・部活動の支援」、50歳代は「スポーツ関係の情報提供」、60歳以上は「高齢者/障がい者スポーツの普及」が最も多い。全ての年代で2割を超えたものは「スポーツ教室の開催」のみだった。18~49歳は「スポーツ少年団・部活動の支援」が2割を超えているが、50歳以上は1割ほどで、逆に「スポーツ等の研修会」は18~49歳が1割ほどだったが、50歳以上は2割を超えている。

※平成28年度「スポーツや運動に関する意識調査結果」

②障がい者スポーツの現状と課題

以前より障がいの有無や年齢に関わらず、スポーツ活動を通して、皆が共に楽しみ交流することを目的としたハートフルスポーツフェスタやバリアフリースポーツ交流大会を実施してきました。

さらに近年では、障がい者への理解をより深め、誰もがより気軽に参加できる場を提供するため、2020東京パラリンピック大会の競技種目にもなったボッチャ大会を開催しており、参加者からは、実施回数を増やしてほしいとの要望も上がっています。

また、練習の場としてボッチャ教室も開催していることから、大会参加者も年々増加傾向にありますが、大会の規模が大きくなるにつれ、運営に関わる人材不足が課題となっています。

引き続き、関係団体の協力体制の確保や、障がい者に対する社会全体の理解がより深まるよう、理解促進に努めていく必要があります。



③競技スポーツの現状と課題

現在、市内には27のスポーツ少年団があり、ミニバスケットボールやソフトテニスでは、県内で上位の成績を収め、全国大会など上位大会へ出場する選手も多数輩出しています。中学、高校生においては、スキー競技や駅伝競走をはじめ、さまざまな種目で、全国大会への出場を果たしているほか、一般成人においては、スキー競技や陸上競技、野球、水泳で、年齢に応じた大会で活躍している選手がおり、幅広い世代で競技スポーツに挑戦し活躍しています。

また、大学進学後も競技を続け、活躍する選手もいることから、アスリートの育成支援に努めています。

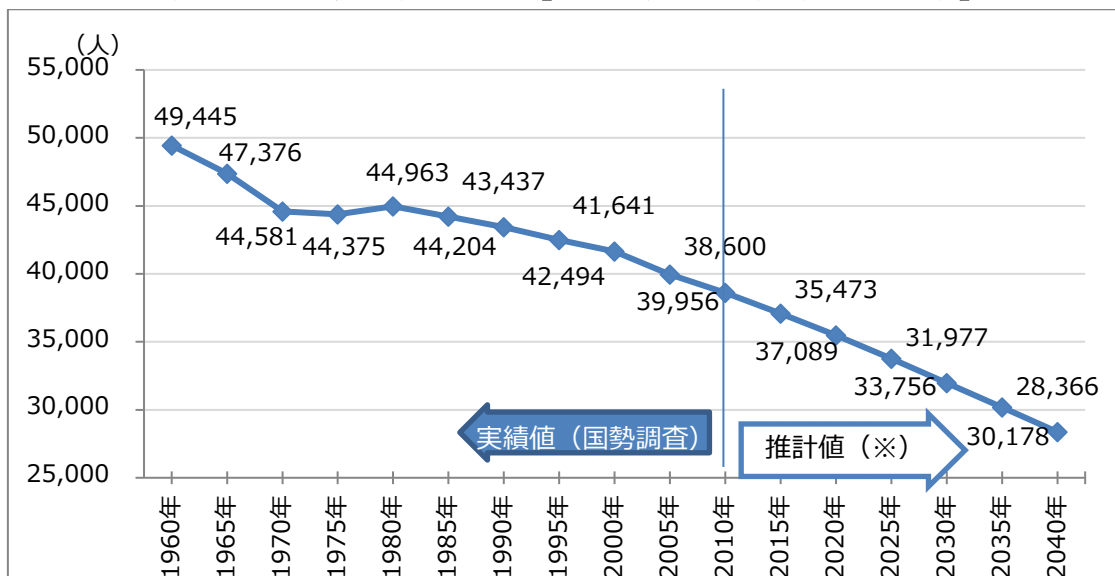
市のスポーツ施設は整備後20～40年が経過し経年劣化が進んでいることから、施設の計画的な修繕を実施するとともに、小千谷市総合戦略で示された将来人口（図表18・19）を考慮した「小千谷市公共施設等総合管理計画」「施設類型別管理計画」及び「個別施設計画」に基づいた施設の整備を進めています。

社会人による自主スポーツ団体では、メンバーの確保が難しい状況であり、スポーツ少年団においても、ここ数年団体数はほぼ変わりませんが、児童生徒数の減少（図表20）とともに、スポーツ少年団員のメンバー確保も厳しくなっています。また、生徒数の減少は、中学校のチーム編成にも影響を及ぼし、数年前から他校と合同で活動している競技もあります。

その他、中学校部活動支援として、外部指導員を派遣し、部活動の充実や競技力向上を図っています。



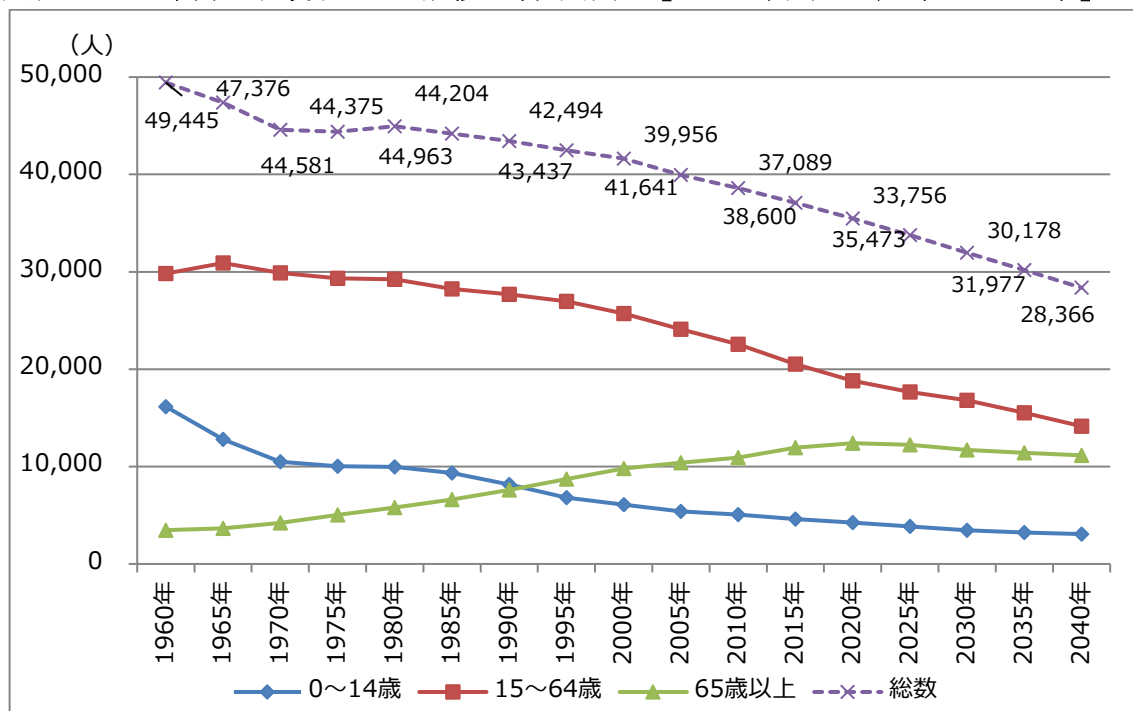
図表 1 8 総人口の推移と将来推計【1960（昭和 35）年～2040 年】



本市は、第一次ベビーブーム（1947～1949）の影響もあり、1960年には約5万人の人口を有していました。しかし第二次ベビーブーム（1974～1979）時には大きな人口増加の傾向はなく、1960年から50年間にわたり人口が減少し続けています。

※国立社会保障・人口問題研究所（社人研）

図表 1 9 年齢 3 区分人口の推移と将来推計【1960（昭和 35）年～2040 年】

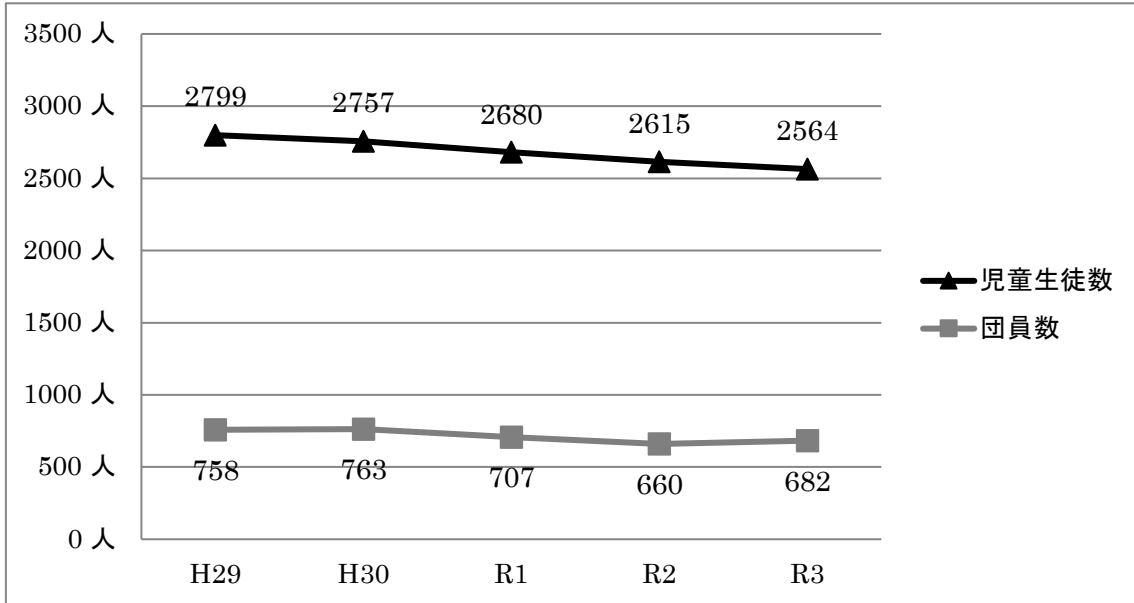


1990～1995 年の間に、年少人口（0～14 歳）と、老年人口（65 歳以上）が逆転し、老年人口が増加しています。年少人口は減少していますが、老年人口は増加を続けることから、少なくとも 2040 年までは、年少人口と老年人口の合計はほぼ一定に推移すると予測されます。

生産年齢人口（15～64 歳）は総人口とほぼ平行に推移していくことが予測されます。

※小千谷市総合戦略

図表 2 0 市立学校児童生徒数とスポーツ少年団登録者数の推移



※生涯学習課調べ

(3) 「みる」スポーツの現状と課題

平成28年度に実施した「スポーツや運動に関する意識調査」によると、今後スポーツ活動に対しての関わり方で望むものとして、「自分の活動を継続」、「プロスポーツ等の観戦」の割合が高く、みるスポーツへの関心も高い状況です（図表21）。

総合体育館や白山運動公園では、中体連や高体連主催の上位大会が多数開催されることから、時勢に応じた感染症対策を講じての観戦やそのための周知が必要です。



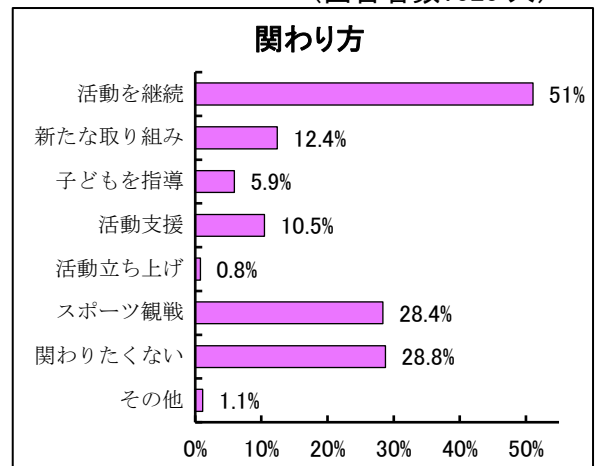
図表 2 1

Q. 今後スポーツ活動に対してどのような関わり方を望みますか。(3つまで複数回答)

(回答者数:525 人)

スポーツ活動に どのような関わり 方を望んでいるか (複数回答)	自分の活動を継続	268
	新たな活動に取り組み	65
	子どもたちの活動を指導	31
	地域のクラブ等の活動支援	55
	新たな活動を立ち上げたい	4
	プロスポーツ等の観戦	149
	特に関わりたいたと思わない	151
	その他	6

「自分の活動を継続する」が5割強と最も多く、次いで「特に関わりたいたと思わない」・「プロスポーツ等の観戦」が続いている。



※平成28年度「スポーツや運動に関する意識調査結果」

(4) 「ささえる」スポーツの現状と課題

平成28年度に実施した「スポーツや運動に関する意識調査」によると、スポーツに関するボランティア活動を行ったことがある人は24.2% (図表22) であり、今後のボランティアへの参加意識としては、ボランティア活動に参加したいという人の割合は、時と場合によるも合わせると61%と半数を超えています。ただし、年代別でみると、70歳以上は参加したくないという割合が他の年代と比べ高く、ボランティア参加には消極的な傾向にあります (図表23)。

また、実際のボランティア経験の内容としては、大会等の審判や役員が65.4%と多く、その他、団体などの運営や世話が33.1%、スポーツの指導が26.8%という状況でした (図表22)。

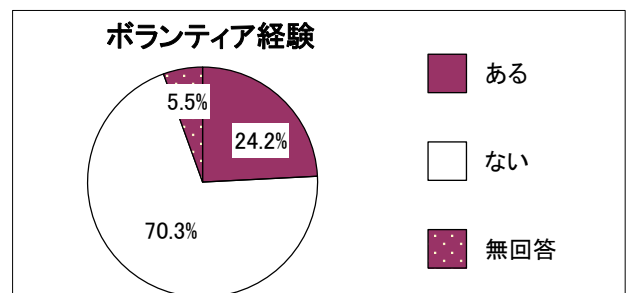
スポーツ指導者の育成だけでなく、スポーツイベントにおいては、運営スタッフも必要なことから、スポーツに対して多角的に人が関わる意識の広がりが必要です。

図表 2 2

Q. スポーツに関するボランティア活動を行ったことがありますか。

(回答者数:525 人)

ボランティア 活動を行った ことがあるか	ある	127
	ない	369
	無回答	29

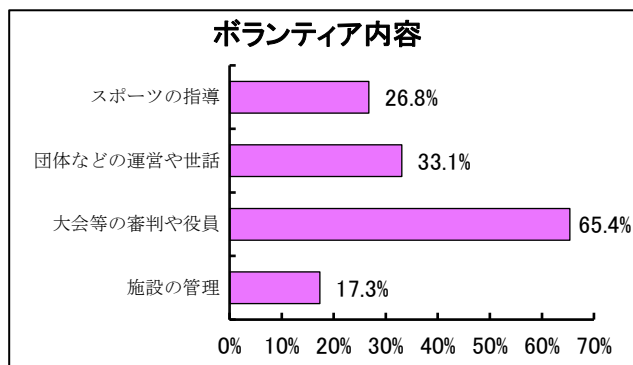


7割がボランティア活動を行ったことが「ない」と回答しており、ボランティア活動を行ったことのある人は2割ほどであった。

(回答者数: ボランティア活動あると回答した 127 人)

ボランティア 内容 (複数回答)	スポーツの指導	34
	団体などの運営や世話	42
	大会等の審判や役員	83
	施設の管理	22

ボランティア内容は「大会等の審判や役員」が最も多く、6割強となる。次いで「団体などの運営や世話」が3割強と続いている。



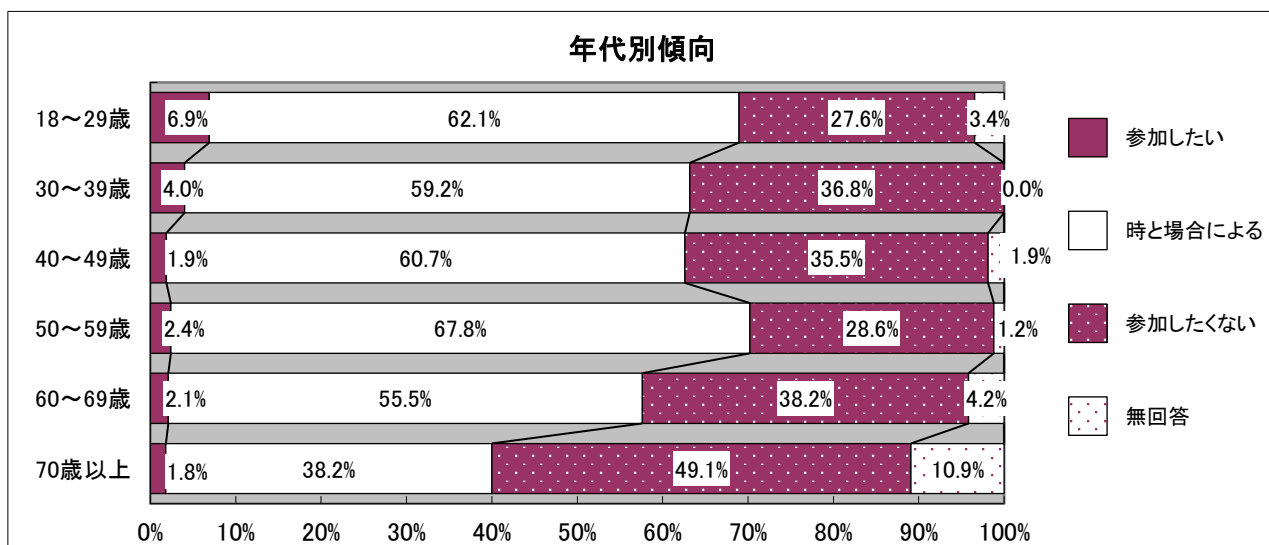
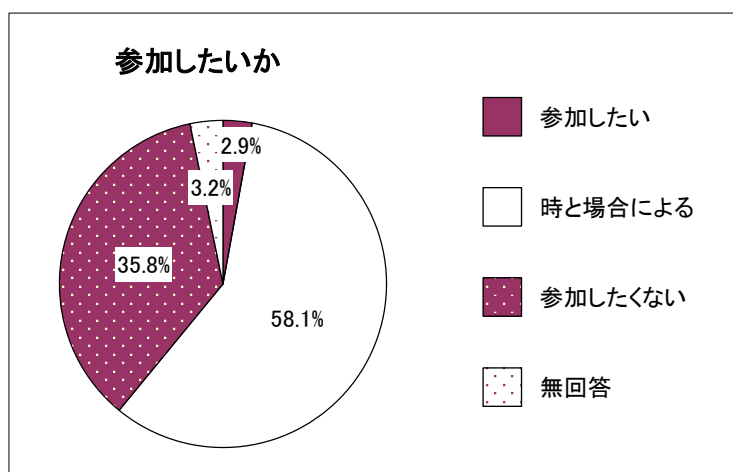
※平成28年度「スポーツや運動に関する意識調査結果」

図表 2 3

Q. スポーツに関するボランティアに参加したいと思えますか。(回答者数: 525 人)

ボランティアに 参加したいと思 うか	参加したい	15
	時と場合による	305
	参加したくない	188
	無回答	17

ボランティア活動に「参加したい」・「時と場合による」を合わせると6割を超え、半分以上の人は参加意欲はあるようだ。



18～69歳は「参加したい」・「時と場合による」が5割を超えるが、70歳以上は4割と少し落ち「参加したくない」が5割弱となった。

※平成28年度「スポーツや運動に関する意識調査結果」

第2章 計画推進のための基本方針及び施策

1 基本方針

◆「する」スポーツ

生涯スポーツ推進

だれもが、いつまでも、スポーツを楽しむことができる生涯スポーツの環境づくりに努めます。

競技スポーツ推進

競技水準の向上と底辺の拡大を図るため、小千谷市スポーツ協会、小千谷市スポーツ少年団及び関係団体と連携しながら選手強化を図り、トップアスリートの育成に努めます。

環境の整備（施設・事業）

生涯スポーツ及び競技スポーツの実践者が共に活動を図れるよう施設の整備、調整に努めます。

また、教室・大会等のイベント開催及び関係団体との協力体制をとり、市民のスポーツ活動の推進に努めます。

◆「みる」スポーツ

市民がスポーツを見ることで感動し夢を持ち、また、スポーツを多様に楽しむために、トップアスリートが出場する大会の開催や、観戦の機会提供などに努めます。

また、市内で開催される市民が参加する各種スポーツ大会を観戦することで、スポーツへの関心を深め、スポーツをすることへの動機づけが図れるよう機会提供に努めます。

◆「ささえる」スポーツ

(1) 団体支援、人材育成

小千谷市スポーツ協会、小千谷市スポーツ少年団や小千谷市スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブなど小千谷市のスポーツ推進の中核となる団体の支援に努めます。

その支援策の一つとして、指導者及び支援者の育成があげられます。ささえる立場でスポーツに携わる人材の充実、また、スポーツに関わるボランティア育成に努めます。

(2) 地域スポーツイベント支援

スポーツを通じた地域活性化イベントの協力支援に努めます。その支援策の一つとして、各地域のスポーツイベントが多方面で盛り上がる事が

できるよう支援に努めます。また、地域スポーツイベントを通して、ボランティア育成に努めるとともに、他の地域活動に波及するよう支援に努めます。

(3) トップアスリート支援

全国、世界で活躍するトップアスリートのサポート、育成支援に努めます。



2 基本目標

◆「成人の週1回以上スポーツをする人の割合」目標値（目標年次）

小千谷市 50%（2020（令和2）年度）

＝第五次小千谷市総合計画 前期基本計画 基本目標

小千谷市 65%（2027（令和9）年度）

【参考】

国 70%（2022（令和4）年 第3期スポーツ基本計画）

◆全国大会等に出場する選手の割合（目標年次）

小千谷市国際交流・文化・スポーツ振興基金：報奨金交付対象者割合

0.25%（2027（令和9）年度）

◆「スポーツボランティア活動実践者の割合」（目標年次）

スポーツ指導やイベント協力などスポーツに関するボランティア活動実践者の割合

30%（2027（令和9）年度）



3 施策

(1) 「する」スポーツ

①生涯スポーツ推進

【幼児期】

幼児期の運動経験がその後のスポーツ活動に与える影響が大きいこと、また、単一の運動よりも様々な運動を経験したほうが、より良い効果をもたらすことが期待できます。

また、この時期の運動経験はその家族の運動実施状況に大きく影響を受けることから、子育て世代である人が望む有益な運動プログラムを提供します。

主な取組

- 幼児期における有意義なプログラムとして、スポーツ推進委員の派遣や、親子運動教室を開催します。
- ウォーキングイベントでの子ども向けレクリエーションなど、幼児とその保護者が運動を楽しむイベントを開催します。

【学童期】

学童期は幼児期同様、単一の運動よりも様々な運動を経験したほうが、より良い効果をもたらすことが期待できます。具体的には、基本的な動きのほか、リズム感覚やバランス感覚などのコーディネーション能力を取り入れた運動メニューを実施することによって、多様な運動遊びに楽しくチャレンジしながら、体を動かすことへの興味・関心を高めることができます。

主な取組

- ウォーキングイベントでの子ども向けレクリエーションや、ポッチャ大会の開催を通じて、各種スポーツに親しむ機会を作ります。
- 学童期における有意義な運動の機会として、総合型地域スポーツクラブが行うキッズチャレンジ事業を支援します。

【青少年期】

この世代においては、休日の中学校部活動地域移行を踏まえ、中学校及び高等学校卒業後に、生活環境が変化しても、引き続き自身の生活習慣の中に運動を取り入れることができるような環境整備が大切です。

選択肢が増えるこの世代では、運動を楽しみ、進んでスポーツに取り組める環境を整えることで、スポーツ離れを解消し、生涯にわたる運動の習慣化を図ることが重要です。

主な取組

- 中学校の部活動地域移行を踏まえ、小千谷市部活動地域移行検討協議会を中心として、運営団体や指導者の確保、体制の整備を進めます。
- 総合型地域スポーツクラブの事業を通じて、世代に応じた楽しくスポーツに親しむ場や機会を提供します。
- スポーツに関する情報提供を充実させ、各種教室や大会への参加促進及び施設利用の拡充に努めます。

【成人期】

働き盛りの世代は、仕事（家事・育児）が忙しいなど多忙であるため、運動から遠ざかる人が多い状況です。様々なアプローチにより、運動をすることへの動機付けや運動の習慣化を図るための取組の充実に努めます。

主な取組

- 成人期における、ライフスタイルに合わせた運動実施の啓発、広報に努めます。
- 家族で参加できるウォーキングイベントや、新潟県のウォーキングアプリを活用したオンラインイベントを開催し、働き盛り世代でも取り組みやすい運動の機会を創出します。
- 仲間と共に活動することで、運動の習慣化が期待できることから、総合型地域スポーツクラブの各種教室の開催を支援します。
- スポーツ施設利用に関する情報提供に努め、施設の利便性向上に努めます。

【高齢期】

スポーツは生きがいづくりのためと捉える人が多く、また高齢者のためのスポーツの普及を望む人の割合が高い状況です。そのため、保健・福祉・教育関係者、関係団体と連携し、健康寿命の延伸や介護予防につなげ、健康で心身ともにいきいきとした生活を送るための取組の充実に努めます。

主な取組

- 身体を動かす楽しさを提供する機会として、おおむね60歳以上を対象とした、若返り健康教室やいきいき健康教室を開催します。
- 地域の集会所等の身近な場所で運動に参加できるように、スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブの関係団体と協力し、継続した運動の機会提供に努めます。
- スポーツを通じた仲間づくりや、高齢者のスポーツ大会の開催を支援します。

②障がい者スポーツ推進

障がいの有無に関わらず、共にスポーツに親しむ機会の提供を図るため、総合支援学校、地域のスポーツ関係者、障がい者団体など関係者との連携を強化し、障がい者スポーツの普及、障がい者への理解促進を図ります。

主な取組

- 障がい者への理解を深めるため、関係団体と連携し、誰もが楽しめるハートフルスポーツフェスタやボッチャ大会等のスポーツイベントを開催するとともに、協力体制の充実を図ります。
- 障がい者スポーツの普及のため、スポーツ用品の貸し出しを行います。
- スポーツ施設の利用促進を図るため、個人使用料の負担を軽減します。

③競技スポーツ推進

小千谷市スポーツ協会、小千谷市スポーツ少年団及び関係団体と連携し、指導者育成、小学・中学・高校と一貫した指導体制の構築、部活動への支援など競技水準の向上を図る取組に努めます。

主な取組

- 市内の選手が参加できる競技スポーツ各種大会の開催及び大会開催への協力、支援を行います。
- 小千谷市スポーツ協会やスポーツ少年団が行うジュニア選手強化育成事業の支援を通じて、トップアスリートの育成を図ります。
- 中学校の部活動地域移行のため、小千谷市部活動地域移行検討協議会を中心に、地域スポーツクラブの育成支援を進めます。

④環境の整備（施設・事業）

市民が長期にわたりスポーツに親しむためには、活動の場、機会が必要です。活動の場の提供としては、「小千谷市公共施設等総合管理計画」に沿ったスポーツ施設の計画的な整備・改修を進め、生涯スポーツ及び競技スポーツの実践者が共に活動できる調整を行います。

また、機会の提供としては、教室、大会を開催する各種スポーツ団体と連携を図ります。

主な取組

- 安全で、誰もが利用しやすいスポーツ施設の整備に努めます。
- 地域のスポーツ活動拠点となる学校体育施設の開放について、多くの人が利用できるよう運営方法を検討します。
- 白山運動公園や総合体育館、市民プール等、気軽に個人で利用できる

施設の利用拡充に努めます。

- 各種スポーツ団体が市民向けに開催する各種事業に対し、広報等の協力、支援を行います。

(2) 「みる」スポーツ

2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、市民のスポーツに対する関心が一層高まったと考えられます。トップレベルのスポーツを見ることで感動し夢を持ち、また、スポーツを多様に楽しみ心豊かな生活を送る社会の実現を目指し、スポーツ観戦の機会を創出します。

トップアスリートに触れる機会を設け、次世代を担う子どもたちの夢を育むために、市内で開催される各種スポーツ大会を観戦することで、スポーツへの関心を深め、スポーツをすることへの動機づけが図れるような機会を提供します。

主な取組

- 小・中学生には「全国規模リーグ戦等観戦奨励金」を交付します。
- 全国規模の大会をはじめ、さまざまなスポーツを身近で観戦できる環境の整備に努めます。

(3) 「ささえる」スポーツ

①団体支援、人材育成

小千谷市スポーツ協会、小千谷市スポーツ少年団は、小千谷市の競技・生涯スポーツ推進を担う団体であり、小千谷市スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブは、小千谷市の生涯スポーツ推進を担う団体です。そのほか、市民のスポーツサークル活動として、自主スポーツ団体があります。

このような小千谷市のスポーツ推進の中核となる団体の支援策の一つとして、指導者及び支援者の育成が必要です。競技スポーツ、生涯スポーツともに、スポーツ活動を充実させるためには、指導者や支援者の存在が不可欠です。また、一緒に活動する仲間づくりもスポーツを継続的に行う上で欠かせません。

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、大会ボランティアへの関心が高まっており、ウォーキング大会などでのボランティアが増えてきましたが、より多くのささえる立場でスポーツに携わる人材、団体の育成に努めます。

主な取組

- スポーツ指導者の育成のため、指導者向けの講習会を開催します。
- スポーツに携わるボランティアの育成に努め、ささえる側からする側への好循環が図れるよう支援します。

②地域スポーツイベント支援

地域のスポーツ資源や地域資源を活用したスポーツイベントの開催は、市外から参加者が訪れ、地域住民が集い、地域の盛り上がりを経て、交流人口の拡大や地域活性化につながります。このようなスポーツを通じた地域の活性化を図るイベントが原点となり市全体へ波及できる支援が求められています。

また、ボランティア育成や拡充の機会としてのイベント支援を行います。

主な取組

- スポーツを活用したイベント開催支援のため、スポーツ用品の貸し出しや広報を行います。
- 各種スポーツ団体に、ボランティアに取り組むための情報提供を行います。

③トップアスリート支援

世界や全国で活躍が期待されるトップアスリートを育成するために、市民や団体と協力して支援します。

主な取組

- 市民及び企業、団体が物心両面でトップアスリートを応援、支援できるよう環境を整備します。



参 考 資 料

小千谷市スポーツ推進審議会委員名簿

任期（令和3年6月1日～令和5年5月31日） 定数（9人以内）

委員長	吉原 正幸	小千谷市スポーツ協会会長
副委員長	大塚 謙児	スポーツに関する学識経験者
	郷 宗治	小千谷市スポーツ協会副会長
	須田 義浩	スポーツに関する学識経験者
	根元 純一	スポーツに関する学識経験者
	斎藤 裕子	スポーツに関する学識経験者
	清水 巴	スポーツに関する学識経験者
	小林 裕貴	スポーツに関する学識経験者
	岡元 義之	関係行政機関の職員（健康未来こども課長）

小千谷市体育施設一覧

(令和5年3月現在)

施設	施設概要
小千谷市総合体育館 大字桜町 4915 番地 電話 0258-83-0077	<ul style="list-style-type: none"> ・メインアリーナ (バスケットボール 3 面、バレーボール 3 面、テニス 3 面、バドミントン 10 面、卓球 24 面 他) 観覧席 (固定席、可動席、身障者席)、ランニング走路 ・サブアリーナ (バスケットボール 1 面、バレーボール 1 面、テニス 1 面、バドミントン 4 面、卓球 9 面 他) ・武道館 (柔道畳、木製床)・弓道場 ・軽運動場 ・トレーニングルーム・会議室・体育団体室 ・幼児プレイルーム
小千谷市民プール 大字桜町 4915 番地	<ul style="list-style-type: none"> ・50mプール ・児童用プール ・幼児用プール ・ウォーターライダー
東小千谷体育センター 旭町 13 番 8 号 電話 0258-82-8510	<p>体育館 (バスケットボール 1 面、バレーボール 2 面、テニス 1 面、バドミントン 4 面、卓球 10 面 他)</p>
白山運動公園 大字山谷 2234 番地 電話 0258-83-4430	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場 両翼 90m、中堅 120m 、ナイター設備 4 基 スタンド (内外野芝生) ・陸上競技場 一部全天候型 トラック 1 周 400m (8 コース) フィールド (投てき場・走幅跳・走高跳) ・クロスカントリー大会運営棟 ・庭球場 ハードコート 4 面、砂入り人工芝 8 面、ナイター設備 18 基 ・クラブハウス ロビー、会議室、放送設備 ・多目的広場 (面積 29,448 m²) 野球場 2 面またはサッカーコート 1 面の利用が可能な広さ バックネット、サッカーゴール設置 ナイター設備 6 基 (サッカーコート用) ・シャンツェ 40 メートル級シャンツェ、ナイター設備 7 基、審判棟 ・サイクリングロード 延長 1.5 km ・クロスカントリーコース (ウォーキングコース併用) 延長 1.8 km ・管理棟 会議室 ・グリーンヒル白山 体育室 (バレーボールコート 1 面程度の広さ)、会議室、シャワー室 他

施設	施設概要
信濃川河川公園 東栄 2 丁目乙 1716 番地 2	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場 両翼 90 メートル 中堅 120 メートル ・多目的グラウンド サッカーコート 1 面程度（一般用 1、少年団 2）の広さ サッカーゴール設置
千谷運動公園 大字千谷甲 3033 番地 1	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場 両翼 90m、中堅 114m ・庭球場 グリーンサント 4 面 ・多目的広場 サッカーコート 1 面程度の広さ サッカーゴール設置
片貝スポーツ広場 片貝町 8640 番地 1	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場 両翼 86m、中堅 108m ・ナイター設備 4 基 ・子供広場 広場面積 3,600 m²
南部スポーツ広場 真人町丁 658 番地 1	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場 両翼 85m 中堅 100m ナイター設備 4 基
吉谷トレーニングセンター 大字四ツ子 66 番地 2 電話 0258-81-6152	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室 ・和室 ・競技場（体育室）（ミニフットサルコート 1 面程度の広さ） ・屋外広場 3,500 m²

小千谷市スポーツ推進計画
(一部改訂)

令和5年3月

発行：小千谷市教育委員会

編集：生涯学習課スポーツ振興室

TEL 0258-83-0077 FAX 0258-83-0078

E-mail syougai@city.ojiya.niigata.jp